

純ノ護ヲ免レマセン

資金、大亞細亞協會臺灣支部ノ基金拾萬圓ヲ集メル爲ニ受領シタ

臺灣總督ヨリ、<sup>毎年</sup>五千圓（二ヶ年分受領）

臺灣銀行ヨリ五千圓受領

臺灣電力株式會社ヨリ五千圓受領

後官信太郎ヨリ一萬五千圓昭和九年度ヨリ

某船會社ヨリ金額不明受領

京橋區西銀座三丁目臺灣製糖株式會社東京支店長石川昌次ニ三萬

圓要求（影山某ヲ通シテ）

臺灣人辜顯榮ヨリ二千圓

同林熊祥ヨリ一千圓等



リ、中谷武世及其事業關係、待合關係等御搜查ニナレハ結局軍人關係

モ明ニナルト考ヘマス

四 昨年十月頃少クトモ三、四回日比谷山水樓ニ馬奈木少佐、片倉少佐、

田中隆吉中佐、天野大尉其他カ參集シテ同一事項ヲ協議シテ居リマス

五 十月頃築地ノ某待合テ片倉少佐、鈴木京大尉、天野大尉、中谷武世等

カ反對派ノ中心人物眞崎大尉（待）（彼等ハ林、荒木大將等ハ眞崎大將ノ

「ロボット」ヲ言ツテ居マス）ヲ失脚サセルタメニハ士官候補生ヲ

煽動シテ刑事問題ヲ起サシメテ責任ヲ負ハシメルニ在リト言フコトニ

就キ協議シタト言フコトテアリマス

六 九月下旬頃憲兵カ思フ様ニナラヌノハ持永少將カ眞崎系テアルカラタ

満井中佐ハ荒木系ノ直系テアル此二人ヲ失脚サセネハナラヌトイフコ

トヲ彼等ハ協議シタトイフコトテアリマス



(註右二項ニ就イテハ怪文書等参考ニナルモノカ憲兵隊等ニアルト思  
 ヒマスカラ御調査ヲ願ヒマス)  
 七辻大尉カ參謀本部部員ノ榮職ヲ離レテ士官學校中隊長ニ轉出シタノハ  
 自分テ進ンテ志願シ士官學校内部ノ反對ヲ押切ツテ實現ヲ見タノテア  
 リマスカ是レハ片倉少佐ト協議ノ上或諒解ノ下ニシタノテ青年將校ニ  
 親シマントスル士官候補生ヲ指導牽制スル爲テアルトノ事實ニ就キ片  
 倉少佐ノ口ヨリ洩ラサレテキマス  
 八而シテ片倉少佐辻大尉カ如何ニ私共ニ對シ反目嫉視シテ居タカ私共ヲ  
 排擠スルノニ如何ナル手段方法ヲ弄シ來ツタカニ就イテハ前告訴狀ニ  
 詳細述ヘテアリマスカラ更ニ御參照ヲ願ヒマス  
 以上今回ノ事件ヲ惹起シテ私共ヲ誣告スルニ至リマシタ重大ナ遠因タル  
 經緯ヲ大要申述ヘマシタニ付トテハ十分ナル詳述合モ遺ニマラス中谷



以上ノ内三四五六ノ各項ニ就イテハ十分ナル御捜査ヲ願ヒマステニ中谷武世ノ不純資金カ如何ニ使用サレテキルカニ就イテハ軍部幕僚其他トノ關係ニ就テ他大ノ疑問カアリマスノテ嚴重ニ御取調ヘラ願ヒマス

第五、片倉少佐、辻大尉等ノ誣告被疑事實

刑法第七十二條ニ「人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ」トアリマスカ先ツ順序トシテ私共ニ反亂陰謀ノ事實カ全ク無カツタコトニ就テ申述ヘマス

三月二十九日附第一軍法檢發第八八號不起訴被告事件票ニ據リマスト其ノ犯罪事實概要欄ニハ「被告人ハ我國現時ノ情勢ハ腐敗墮落セル所謂支配階級ノ横暴ト無自覺トニ依リ宿弊山積シ國體ノ原理タル一君萬民君民一體ノ理想ニ反スルコト甚シキモノアリ速ニ國家ヲ改造シテ政治上、經



濟上等各般ノ部門ニ國體ヲ顯現セサルヘカラスト爲シ所謂國家改造ヲ志  
 シ兵力ヲ使用シ直接行動ニ依リ國權ニ反抗シ支配階級ヲ打倒センコトヲ  
 企圖シ以テ反亂ノ陰謀ヲナシタルモノナリ」トアリマシテ是カ首題通り  
 犯罪事實トシマスト第一ニ不起訴ニ決定シタ理由テアル「證據十分ナラ  
 ス」トイフコトト首尾一貫シナイ矛盾撞着テアルノミナラス豫審調書中  
 如何ナル箇所ヲ指摘シテ「反亂ノ陰謀ヲナシタルモノナリ」トイフ結論  
 ニ到達セルカ極メテ不可解ノコトテアリマシテ此點ニ就キ去ル四月一日  
 檢察官殿ニ御質問致シマシタ所「コノ犯罪事實概要トイフモノハ嫌疑事  
 實テアル」トイフ御答テアリ「豫審ノ一切ノ結論ハ「證據不十分」「不  
 起訴」ノ二語ニ盡キル」旨御示カアリマシタノテコレニ關スル疑念ハ一  
 應氷解スルコトカ出來マシタ  
 然シナカラ「證據十分ナラス」トイフコトハ犯罪カアツタトイフコトニ



ナラナイト同時ニ事實無根テアツタトイフコトヲ積極的ニ立證スルモノ  
テハナク此點私共ノ尙不審トスル所テ豫審終結ノ意見書ハ絶對秘密テ私  
共ノ披見ヲ許サレマセンノテ何トモ辯論ノ餘地ハアリマセンカ私共ノ信  
スル所ニ於テ本事件ハ事實無根テアル點ヲ一應簡單ニ申述ヘマス  
一私カ昨年十一月十一日及十八日ノ兩日ニ亘リ五士官候補生ニ對シ直接  
行動計畫類似ノ説明ラシタコトハ事實テアリマスカ私ヲ中心ニ士官候  
補生カ謀議シタノテハ無ク當時國家改造ナルモノニ一知半解ナルカ儘  
ニ東北農民ノ窮乏等ニ刺戟サレテ矯激ナ猪突的感情ニ驅リ立テラレン  
トシテ中々士官候補生ヲ鎮靜慰撫シテ其ノ感情ノ冷靜緩和ヲ待ツテ匡  
正補導シヤウトスル眞意カラ即興的架空ノモノヲ計畫トシテ示シタノ  
テアリマス私共ハ五・一五事件ノ士官候補生ニ對シテハ唯々單ニ自重  
ヲ説イテ來タ爲ニ私共ノ手裏カラ脱逸サセタ苦イ經驗ヲ有スルモノテ



アリマシテ今ノ時機ニ於テ五。一五事件ノ轍ヲ再ヒセサラント焦慮シ  
 テアノ様ナ手段ヲ一時的の方便トシテ採用スル外ハナカツタノテアリマ  
 ス片岡中尉モ士官候補生ニ對シ私ノ説明ト似通ツタコトヲ申述ヘテ居  
 ル様テアリマスカ全ク私ト同一心境ニ於テナサレタノテアリマス西郷  
 南洲カ木場傳内ニ與ヘタ書中ニ「右ノ者（平野國臣）至極決心致シ居  
 候故又其方ト死ヲ共可致我等ニ相成候イツレ決策相立候ハハ共ニ戰死  
 可致ト申置候勿論皆死地ノ兵ニテ生國ヲ捨父母妻子ニ離泉公ノ御大志  
 被爲在候段奉慕出掛候ニ付都テカ様ニ申候テハ自負ノ様御座候得共私  
 ラアテニイタシ來候條故私死地ニ不入候ニハ死地ノ兵ヲ救フ事出來申  
 間敷」云云トアリマシテ古人ト軌ヲ一ニシテ居リマスカ何人テモコノ  
 立場ニ於テハ斯クセサルヲ得ナイト思ヒマス  
 ニ右ノ兩日以外ニモ士官候補生トハ絶エス接シテ居マスカ未タ嘗テ談話



カ直接行動ニ及ンタコトハアリマセン

三 其他在京ノ青年將校カ各種ノ會合集會ヲ催シテ時局ヲ論シ改造問題ヲ研究シテ來マシタカ談偶々矯激ニ走り或ハ十月事件、五・一五事件ニ觸レ是等ノ事件以降世間一般ノ彈劾目標トナツタ重臣、政黨、財閥等ヲ非難排撃スル言説ヲナスコトモアリマセウカ未タ嘗テ反亂類似ノ謀議ヲシタコトノナイコトハ豫審ニ於テ廣範圍ニ亘リ詳細御取調ヘニナツタ結果明白ニナツタコトト思マス

四 反亂ヲ陰謀シタトシテ時機ヲ臨時議會前後ニ選定シテキタモノトスレハ豫審開始當時或ハ事件發生ノ十一月二十日頃ニハ當然ニ相當ノ決行準備カ整ヘテ無ケレハナリマセン即チ反亂豫備罪ヲ形成スル程度ノ準備行動ニ移ツテキルノカ當然テナケレハナリマセン私カラ士官候補生ニ與ヘタ「指令」ト稱セラレルモノハ單ナル惡意的ト作爲事實テアル



コトハ告訴狀ニ詳論シテアル通りテアリマシテハ是ハ全ク事實無根テ  
 アリ準備命令テモ何ンテモアリマセン又其他決行準備ト見ルヘキモノ  
 ハ一切アリ様カナイノテアリマス從ツテコノ時期ニ於テ一切準備ノ無  
 カツタコトハ計畫自體モ事實無根テアルコトヲ極メテ明瞭ニ立證スル  
 モノテアリマス

以上テ反亂陰謀ノ事實無根ナルコトハ明白テアリマス

以下三名ノ者カ本事件ニ關聯シテ行動シタ所ノ大要ヲ述ヘコレニ基キ  
 彼等カ虚偽ヲ申告セルコト及刑事又ハ懲戒處分ヲ目的トシテキタコト  
 ニ就キ項ヲ別ケテ申述ヘマス

其一、片倉少佐、辻大尉、塚本大尉

佐藤候補生等ノ行動大要

既述致シマシタ軍内ノ統制派、清軍派ノ策謀ト思想方針トニ基キ片倉、



辻、塚本、佐藤ノ四名カ如何ナル策動ヲ行ツタカ十一月事件ヲ捏チ上ケル爲ニ如何ニ奔走シタカニ就イテ以下列舉シテ申述マス

一 昭和九年十月廿四日辻大尉、佐藤候補生カ會見シ青年將校ノ内部偵察ニ關シ密謀ヲシテ居マス辻、佐藤ノ兩名共「佐藤ノ申出ラ辻カ諒解ヲ與ヘタ」様ニ陳述シテ居リマスカ斷シテ然ラサルハ後ニ論述スル通りテアリマス

二 十月廿八日佐藤以下五名ノ士官候補生カ磯部主計ヲ訪問シ佐藤ハ此時「實行計畫ハアルカ」「軍刀ハ準備シアリヤ」「青年將校ノ指導者ハ誰カ」等ノ質問ヲ發シマシタ

三 同日磯部主計ト共ニ佐藤外二名ハ西田稅ヲ訪問シ佐藤ハ同宅ニ於テ大藏大尉ニ對シ拳銃ヲ撃ツ眞似ヲシテ「コレヲヤリマスカ」ト質問シ西田稅ニ對シ生計問題ヲ探偵スル如キ態度ヲ以テ質問ヲシテ居マス



四十一月三日佐藤、武藤ノ兩候補生私宅ニ來リ佐藤ハ士官候補生ノミテ臨時議會ニ直接行動ヲ決行スル決意ノアル事ヲ述ヘ青年將校ノ實行計畫ナルモノヲ聞出サント努メシモ武藤候補生ニタシナメラレテ質問ヲ斷念中止シテ歸リマシタ

五十一月三日乃至十日辻大尉ノ週番中佐藤ノ手引ニヨリテ佐々木、荒川次木、武藤其ノ他數名ノ士官候補生ハ辻大尉ヲ訪問シ同大尉ヨリ私共青年將校ハ不純分子テアル青年將校ハ自ラ蹴起スルニ非ヌシテ士官候補生ヲ煽動利用セントスルモノテアル等ノ説明ヲ聽テ居リマス

六十一月十一日佐藤、武藤ノ兩名再度私宅ニ來訪シ武藤ハ牧野伸顯邸ノ位置ヲ質シ佐藤ハ候補生ノミテ輕機三挺ヲ以テ議會開會中ニ議會ヲ襲撃セント云ツテ實行計畫ノ開示ヲ強要シタルヲ以テ私ハ前述ノ如ク一先ツコノ興奮ヲ鎮壓スル爲青年將校ニモ決意ノアル事ヲ示サウト思ツ



テ實行計畫ナルモノヲ即席作爲シテ兩名ニ示シタノテアリマス

此日武藤カ從來ノ傾向ト全ク異リ矯激ナ態度ニナツタノハ前項ノ辻大

尉訪問ニ於テ同大尉ノ煽動示唆ニヨリ私共ニ對スル一抹ノ不信頼ノ感

ヲ抱イタノカ或ハ佐藤候補生カ前回武藤ノ制止ヲ受ケタ失敗ニ鑑ミ武

藤ヲ煽動シテ同人ノ口ヨリ計畫開示ヲ強要サセタ結果テアリマセウ

七同日佐藤ハ自宅ニ待合ハセテキタ衣笠、向井兩候補生ニ私トノ會見ノ

内容ニ就テ語ツテキマス

八十一月十二日佐藤候補生ハ私トノ會見内容ヲ辻大尉ニ報告シテ居マス

九十一月十六日辻大尉ハ北野生徒隊長ニ報告シ片岡中尉ハ生徒隊長ノ取

調ヲ受ケテ居リマス

十同日辻大尉ハ片倉少佐ト會見シ同夜片倉少佐宅ヲ訪問シ佐藤ノ報告ニ

關シ連絡シテ居リマス



七月十一日十八日以前ニ辻大尉ハ塚本大尉ニ内報シテキマス  
 七月十一日十八日佐藤候補生私方ニ來リ佐藤ハ各種ノ口實ヲ設ケテ決行  
 時機ヲ探索セントシ又佐藤ハ武藤ヲ西田宅ニ到ラシメ軍政府ノ主班ハ  
 誰テアルカト探ラセテ居リマス

十三日同日塚本大尉ハ辻大尉ヲ訪問シ内報ヲ受ケ片倉少佐ニ會見スヘキ旨  
 ノ勸告ヲ受ケテ居リマス

十四日十一月十九日  
 イ、佐藤候補生ハ筆記報告ヲ辻大尉ニ呈出

ロハ午前中ニ辻大尉ハ片倉少佐ニ連絡

ハハ塚本大尉ハ片倉少佐ヲ訪ヒ概要ヲ聴取是レヲ城倉憲兵中佐ニ報告

ニシタ後更ニ詳細ナル事項ヲ片倉少佐カラ聽テ居リマス

ニ、城倉中佐ハ片倉少佐カラ内報ヲ受ケタ後塚本大尉ノ報告ヲ受ケテ



居マズ

ホ、午後四時片倉少佐ヨリ辻大尉ニ連絡

ヘ、此日辻大尉ハ佐藤候補生ヲ取調ヘテキマス

ト、塚本大尉ハ憲兵司令官ニ報告シ午後九時カラ廿日午前三時迄憲兵

司令部會議カアツテ檢舉ニ決シマシタ

十月十一月二十日午前三時塚本大尉ハ辻大尉ヲ訪ヒ相携ヘテ片倉少佐ヲ

訪ヒ三名同道シテ陸軍次官ヲ訪ヒ本事件カ世間ニ擴マルニ從ヒ青年將

校ニモ洩レ準備未完了テモ決行スルテアラウト強調シ彈壓ヲ進言要請

シテ居マス

右ノ中「十一」ハ多田督知大尉ヨリ歩一中隊長佐藤龍雄大尉ニ直話シタ

コトデアリ又辻大尉ノ行動ニ關スルモノハ辻大尉カ砲工學校學生明石少

尉ニ直話シテ居リマスカラ詳細ハ多田大尉、明石少尉ヨリ御聽ヲ願ヒマ



ヤス尙明石少尉ハ事件後片倉少佐ニ面會シテ居リマスカ同少佐カ如何ニ  
 虚言ニ富ムカノ例證ニナルト思フ節カアリマスカ同少尉カラ御聴取ヲ  
 願ヒマス

辻大尉ハ其後佐藤ノ「スパイ」行動ヲ許可シタル旨生徒隊長ニ内報シ  
 其ノ同意ヲ得且兩人以外ニハ秘密ニスヘキ旨ヲ要求シテ居リマス後日  
 辻大尉カ中隊長ヲ免セラレタラハ實ハ此ノ密約ヲ楯ニトリ中隊長ヲ罷  
 免スル様ノ事アレハ聲明書ヲ出スヲ以テコレニ同意署名セヨト生徒隊  
 長ニ迫ツタコトハ、澄官殿下ノ御日誌ヲ利用シテ佐藤候補生ヲ鼓舞激勵  
 シタコトカ問題化シタ爲テアルト聞<sup>マ</sup>キテ居リマス之ニ關シテハ士官學  
 校當局ニ就キ御調査ヲ願ヒマス

其二、虚偽ヲ申告セル事實

一 佐藤候補生、辻大尉カ豫審ニ於テ陳述シテキル處ヲ見マスト私カ佐藤



候補生等ニ計畫メイタモノヲ話シ聞カセタトノ點ハ事實テアリ又其ノ  
計畫内容ニ於テ襲撃目標、人物及是レニ配當スル部隊等ノ點テハ似通  
ツテ居ル點カ無イテモアリマセンカ計畫上目的時機等ノ重要ナル部分  
ニ於テ氷炭相容レヌ正反對ノ事ヲ述ヘ指令ナルモノヲ捏造シテ居リマ  
スコトハ前告訴狀ニ於テ數個ノ事例ニ亘リ説明致シテ置キマシタ通り  
テ尙其ノ他拳銃問題等ノ如キ所謂「計畫」外ニ於テモ惡意的ナ故意ニ  
轉化作爲シタ様ナ事ヲ申述ヘテ居リマススコトハ多々アリマス、是ヲ豫  
審調書ニツキ御檢討ヲ願ヒタイノテアリマスカ之ヲ要スルニ十中一二  
ハ眞實ノ報告トスルモ其ノハハ虚偽ノ申告テアルト申サナケレバナ  
リマセン

ニ而シテ右ハ斷シテ佐藤候補生ノ誤報テハナク明カニ辻大尉、片倉少佐  
等テ故意ニ改竄捏造シタモノテアリマス時機問題ヲ例ニトツテ之ヲ申



シマスト第一辻大尉ニシテモ片倉少佐ニシテモ臨時議會前後ニ私共カ  
 決行スル等トハ毛頭考ヘテキナイノテアリマス  
 何トナレハ若シ臨時議會前後ト云フ事ニナリマス十一月十八日十九日ハ  
 既ニ臨時議會前後ニ包含サルヘキ時期テアリ十二日ニ報告ヲ受ケテキ  
 ル辻大尉トシテ又十六日ニ知リ得タ片倉少佐トシテ其後安閑トシテ居  
 ラレル様ナ譯カアリマセン直ニ上司ニ報告シテ處斷ヲ仰クコトカ必要  
 テアリ又辻大尉ノ如キハ十八日佐藤カ私宅カラ歸ツテ來ルノヲ待チ兼  
 ネテ事ノ眞否ヲ確メル必要カアルト思ヒマス然ルニ辻大尉ハ十九日始  
 メテ佐藤カラ第二回ノ報告ヲ受ケテ居リ又辻ハ十八日直接私ノ所ヘ來  
 テ確メル積リテアツタカ友人カ來タ爲ニソレヲ果シ得ナカツタト申述  
 ヘテ居リマス私ニ會フノナラハ十八日ニ限ル必要ハナク十二日以降成  
 ルヘク早く來ルヘキテアリ又十八日ニハ假令來客カアツタトシテモ眞



ニ臨時議會前日ヲ懸念スルナラハ萬難ヲ排シテモ來ルヘキテアリマセ  
ウ又片倉少佐ニシテモ十九日深夜騒キ回ル丈ケノ考ヘカアルノナラハ  
何故十九日退廳ヲ止メテモ本事件ノ解決ニ奔走シナカツタ辻大尉モ左  
程熱心ニ校内テ搜查ニ從事シタトハ思ハレナイ節カアリマス即之ニ由  
ツテ見ルニ片倉、辻兩人共臨時議會前後ニ私共カヤル等トハ考ヘテキ  
ナカツタモノト断定スル事カ出來マス眞ニ議會前後ニヤルモノト考ヘ  
テキルモノナラハ十九日深夜陸軍次官ニ對シ彈壓ヲ要請シタ場合何ヲ  
好ンテ事カ世間ニ漏レ青年將校ノ耳ニ入ツタナラハ準備未完了テアル  
カ切羽詰ツテ擲起スルカモ知レヌ等ト進言スル必要カアリマセウカ世  
間ニ洩レル洩レヌニ關セス二十八日佐藤ノ第一次偵察報告ヲ待チ兼ネ  
テ上司ニ報告シ急遽彈壓スヘキ焦眉ノ間ニ迫ツテキル問題テアリマス  
又此頃ニ準備未完了トイフ事テハ臨時議會間ニハ實行シ得ナイト云フ



事ヲ裏書キシテキルモノテハアリマセンカ從ツテ佐藤候補生ノ報告如何ニ拘ラス兩名ノ者ハ決行時機ハ臨時議會前後テアルトハ思ツテ居ナカッタ事ハ明瞭テアリマスシ又佐藤候補生トシテモ決行時機ニ關シ臨時議會頃テアルト云フ様ナ報告ヲ爲ス譯ハ絕對ニナイ事ハ告訴狀其四ノ三ニ記載シテアル事ニヨリ十分立證シ得ルト思ヒマス

即チ時機問題ニ關スル限り辻、片倉等ノ作爲テアル事ハ明瞭テアツテ從來私共ヲ排斥シテ來ツタ彼等ノ策動ヲ考ヘマスト其ノ他ノ點ニ於テモ時機問題同様彼等ノ作爲捏造テアルト斷定シテ憚ラナイノテアリマス

辻大尉等ハ佐藤候補生ノ報告ヲ信シ其ノ儘ヲ上司ニ報告シタノテアルト辯疏スルテアリマセウカ辻大尉ハ「改造運動ニ士官候補生ハ這入ツテハキケナイ候補生ハ將校テナク次ノ時代ニ將校トシテ立ツヘキ未完



成ノモノテアル」云々ト云フコトヲ常ニ口ニシテ來タ人物デアリマス  
然ラハコレハ一面ニ於テ候補生ハ未タ一人前ニ生長セサル未完生者テ  
アリ其ノ言動ハ充分ナル信頼ヲ置クヲ得サル程度ノモノデアルトイフ  
事デアリマスソレヲ信シタトイフ事ハ辻大尉ヲ自己矛盾テアヲマ故  
辻大尉ヨリ佐藤カ別個ニ獨立シテ行動シ辻大尉カ佐藤ノ報告ヲ其ノ  
儘信シタトイフ事ハ矛盾テナケレハナリマセン

辻大尉、片倉少佐等ハ本計畫ナルモノニ就テ全然信ヲ置イテキナカツ  
タト云フ事實ハ更ニ他ノ方面ヨリ論證スル事カ出來マス

イ、片倉少佐、辻大尉等ハ絶エス青年將校ハ直接行動ノ意志ヲキニ拘

ラス士官候補生ヲ煽動シテ之ヲ激發セシメ其ノ結果ヲ利用シヤウ

トシテキルト云フ「デマ」ヲ各方面ニ各地ニ於テ放送シテ居リマス

即チ今度ノ「計畫ナルモノ」ニアリマス青年將校カ自ら兵力ヲ率ヒ



テ蹴起スルトイフ事ハ從來認メテ中ナカツタ譯テ又大袈裟ヲ計畫ヲ  
 立テテ士官候補生ヲ釣り候補生丈ケニ決行サセテ其ノ結果ヲ利用ス  
 ルナラハ本計畫ナルモノハ候補生丈ケノ行動ニヨツテ相當ノ効果ヲ  
 達成シ得ルモノテナクテハナマ<sup>リ</sup>セン侍從長、宮相等丈ケヲ覘ツテモ  
 所謂既成階級ノ大物トモイフヘキモノヲ逸シタノテハ其ノ結果ヲ利  
 用<sup>大ニモ</sup>仕様ハナイノテアリマシテ本計畫ハ一見シテ士官候補生ノミヲ  
 煽動蹴起セシメソレヲ利用シテ行カウトスルモノテナイコトハ明カ  
 テアリマスカラ此ノ意味ニ於テモ本計畫ナルモノヲ信シテキル筈ハ  
 ナイノテアリマス

ロ、豫審調書ニ於テモ青年將校カヤルトハ思ヘナイト云フ意味ノ陳述  
 ヲシテキマス

ハ、十一月十七日頃丸龜ノ小川大尉、江藤中尉、金澤ノ市川少尉等カ



上京シテ居タノヲ知ツテ「イヨイヨヤルノタ」ト思ツタソウテアリ  
マスカ之等ノ人々ハ佐藤、辻等ノ作爲シタ所謂「計畫」ノ中ニハ加  
ヘテナイ人物ハアリマスカラ此ノ判断ハ我田引水式ノモノテアリマ  
ス

ニ、辻大尉ハ前ニ申述ヘタ如ク永井大尉宅テ大藏、磯部ト會見シタト  
キニ「君等カヤル時ハ直クニ知ラセテ呉レ其時ハ決シテヒケハトラ  
ナイゾ」ト自ラ云ツテキタノテアリマス辻大尉ハ私共カ直接行動ヲ  
決意シテキルト信スルナラハ前言ニ從ツテ當然私共ノ所ヘ來ルヘキ  
テアルト思ヒマス勿論辻ハ十八日ニ私宅ニ來ル積リテキタカ來客カ  
アツテソノ目的ノ果シ得ナカツタト云ツテ居リマスカコレハ一片ノ  
口實、言ヒ逃レテアルコトハ前ニ申述ヘマシタ通りテアリマシテ之  
レニ徴スルモ辻ハ決シテ私共カ決行スルトハ思ツテキナカツタノテ



アリマス。以上ノ如ク辻大尉、片倉少佐等ハ私カ士官候補生ニ話シタ實行計畫ナ  
 ルモノニ信ヲ置イテ井ナカシタ事ハ明瞭デアリコソ自ラ信シ得ナイモ  
 ノヲ以テ上司ヲ信セシメ彈壓ヲ決行ヲ促ス爲ニハ各種ノ方策ヲ必要ト  
 シ之カ爲「計畫ナルモノ」ヲ惡意的ニ作爲捏造シ或ハ統帥系統ヲ紊ツ  
 テ唐突ニ陸軍次官ヲ訪問強請シ又ハ「青年將校ハ未然ニ發覺シタ事ヲ  
 知ツテ準備未完了テアルカ切羽ツマツテヤル」ト云フ詭辯的進  
 言ヲナシ彈壓ヲ強請シタリシタノデアリマセウ

以上縷述シマシタ事カラ歸納シテ彼等カ虚偽ヲ申告シタト云フ事ハ極メ  
 テ明白ナ事實デアリマス

第三、刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル  
 目的ナリシ事實



既ニ申述ヘマシタ彼等ノ方針、惡意的ナ策謀及其ノ行動大要ヲ御参照ニ  
ナレハ彼等カ私共ヲ排撃スル爲ニ本事件ヲ提ヘテ上司ヲ動カシ刑事又ハ  
懲戒ノ處分ヲ決行サセル爲如何ニ努力シタカハ略々明瞭テアリマシテ  
辻大尉カ生徒隊長ニ内報シ城倉少佐、塚本大尉、多田大尉等ト連絡シ  
タコト  
片倉少佐カ塚本大尉、城倉少佐等ト連絡シタ事  
片倉、辻、塚本ノ三名カ陸軍次官ニ内報シ彈壓ヲ強請シタコト  
ハ明カニ取締リ彈壓ヲ希望シタ事テアリマス塚本大尉ニ對シテハ同志的  
連絡テアルトシテモ軍人ノ非違ヲ取締ルヘキ憲兵テアリマスカラ聞イタ  
以上放任スルコトハ塚本大尉自身ノ職責不遂行テアリマス生徒隊長、憲  
兵司令官、陸軍次官亦然リテアリマス「殺人反亂ノ陰謀カ進行中テアル  
カ處分スルナ」ト云フ内報ヲ警察機關ニ傳ヘル事ハ其レカ警察官吏ニ對



スル以上尙更不都合ナ話テ之ハ拙劣ナ詭辯的言ヒ逃レテアリマス  
 辻大尉カ各中隊長、區隊長ニ連絡シテ匡正補導スル事ナク生徒隊長ニ密  
 報スルト共ニ參謀本部ノ片倉少佐ヤ憲兵ノ塚本大尉ニ連絡シタリ三名テ  
 突然陸軍次官ニ要請シタリシタ事カ如何ニ私黨的連絡策謀ヲ主トシテ軍  
 ノ統制ヲ分斷スル不純ナモノテアルカヲ立證スルト共ニ私共ヲ叛亂陰謀  
 ノ刑事問題ニシヤウトシタノテアル事ヲ證明スルモノテアリマス  
 陸軍次官ヤ憲兵將校ヤ生徒隊長ニ告ケテ彈壓ヲ要求スル事ハ然カモ其ノ  
 内容カ叛亂陰謀テアルトキ「彈壓」「處分」ハ當然刑事處分或ハ懲戒處  
 分ヲ受ケシムル目的テアツタ事ハ明瞭テアリマス三名ノ者ハ十一月二十  
 日早朝陸軍次官ニ對シ彈壓ヲ要スルノ意味ヲ進言シテ居リ又片倉少佐ハ  
 本事件ヲ檢察處分ニ廻付シ豫審ノ結果如何ヲ問ハス不起訴處分トナシ關  
 係將校ハ停職ニスヘキ意味ノ意見書ヲ上司ニ具申シテ居ル由テアリマス



是等ノ事ニヨリ三名ノ者ノ意圖ハ明確ニ判斷シ得ルモノト思ヒマス尙右  
意見書ノ内容ハ森嚴ナル軍司法ノ判決ヲモ無視セントスル許スヘカラサ  
ル兇逆ナル思想ノ發露テアルト思ヒマスカラ同意見書ヲ御取寄セノ上御  
検討ヲ願ヒ度イト思ヒマス誣告事實御調査ニ就テハ十一月事件ニ關聯シ  
テ一應御調ヘノ様テアリマスカ夫以外ノ新事實モアリマスノテ改メテ嚴  
重ナル御調査ヲ願ヒマス  
尙豫審調査ニ依リマスト辻等三名ノ者ノ陳述ハ全ク同一テ相互連絡ノ疑  
モ感セラレルコトテアリマスカラ相互連絡ヲ斷ツ方策ヲ講スル様願イタ  
イノテアリマス

第五、其ノ他ノ參考事實

以上ハ誣告ノ事實テアリマスカ辻大尉等カ此ノ誣告ニヨリテ私共ヲ排擠  
スル爲如何手段ヲ弄シテ其ノ資料ノ獲得ヲ圖ツタカト申シマスニ佐藤候



補生、辻大尉ノ兩名共其ノ目的動機ヲ美化シア居リマスカ佐藤カ青年將  
 校ノ動靜ヲ内偵セント申シ出テ辻カ之レヲ容認シタモノテアルト豫審其  
 ノ他テ申シ述ヘテ居リマス何レニセヨ佐藤候補生ノ行動ハ明カニ敵人ニ  
 對スルカ如キ「スパイ」行動テアリ辻大尉、佐藤等ノ「スパイ」行動ニ  
 就イテハ告訴狀其ノ三ニ於テ一部ノ實ヲ指摘シテ置キマシタカ其ノ動機  
 目的ハ決シテ佐藤ノ陳述セル如キ他ノ四候補生ヲ煽友トシテコレヲ救ヒ  
 出サウトシタモノテナイコトハ佐藤カ武藤候補生ニ接近セル經過カ不自  
 然ナ計畫的ノモノテアツタ事、佐佐木、次木、荒川、武藤ノ四候補生ト  
 ノ間ニハ一身ヲ犠牲ニシテマテモ救ヒ出サナケレハナラナイ何等ノ情誼  
 的ナ關係カ從來全ク無カツタ事、刑務所内ヨリ佐藤カ他ノ四候補生ノ惡  
 口ヲ自己ノ學友等ニ書キ送ツタ程四名ニ對シ佐藤ハ惡意的テアツタ事等  
 カラ觀察スルニ明カニ首肯シ得ル事テアツテ果シテ然ラハ其目的ハ辻大



尉等ノ爲ニ私共ノ内部情況ヲ偵察スルノカ唯一ノ動機目的テアツタト云  
ヒ得マス寧ロ辻大尉等カ私共ヲ排撃スル資料ヲ探ラントシテ計畫的ニ  
「スパイ」ノ使用ヲ企圖シ佐藤ヲ積極的ニ躍ラセタト見ル方カ至當テア  
リマス其ノ一例トシテ辻、佐藤兩人ノ關係ニ就イテ申述ヘマスト次ノ通  
リテアリマス

一 佐藤候補生ハ昨年九月本科入校以來辻中隊ノ生徒テアツタ事

ニ十月二十四日以前、佐藤ハ改造運動的ニ見テ辻系統テアルト推測サレ  
ル旨武藤候補生ヨリ磯部主計ニ話シテ居リマス

三 辻大尉カ士官學校ノ方針ヲ破リ精神訓話其ノ他公私ノ立場共ニ五・一  
五事件ヲ讚美シ犠牲的精神ヲ高調シタノハ實ニ奇怪ナ行動テアリ天保  
錢ノ燦然タル光ト型破リノ說話トヲ以テ生徒ヲ魅惑スル煽動的態度テ  
アツテコレニヨリ自己ノ腹心ノ生徒ヲ作ラウトシタ事ハ明瞭テ佐藤、



衣笠、白井、林、小林等ノ數名ト密接ナ關係カ生シタ様デアリマス辻

大尉ノ訓話内容等ハ同中隊生徒ノ手簿日誌等ニ就キ御調査ヲ願ヒマス

四 十月二十四日佐藤ハ辻大尉ノ許ニ至リ協議シ佐藤ハ青年將校ノ方へ潛

入シテ偵察セント決シ辻大尉ハ之ヲ懲懲鼓舞シテキマス豫審調書ニ於

テ辻大尉ハ佐藤ノ人物ヲ見込シテ虎穴ニ入りテモ誤ル事ノナイ者デア

ルカラ偵察ヲ命シタノデアツテ他ノ者デアツタラ同意シナカツタデア

ラウト申シ述ヘテキマスカ僅々一、二ヶ月テ二百名近イ中隊生徒ノ個

性ヲ鑑別スル事ハ如何ニ明敏ナ辻大尉テモ絶對ニ不可能ノ事デアツテ

辻ノコノ言葉ハ明瞭ニ兩者間ノ密接ナ關係ヲ裏書キシテキルモノデア  
リマス

五 荒川候補生ハ佐藤カ告白トシテ「青年將校ノ裏ヲカイテヤル」ト云フ

テキタ旨ヲ十一月二十七、八日頃明石少尉ニ傳ヘテ居リマス



六 佐藤ハ青年將校及西田税ニ接近シタ當初カラ辻等ト同様反感惡意ヲ有シテ居タ事、一ヶ月半以前ニ本科ニ入校シタモノトシテハ過分ナル質問内容テアツタ事、且其ノ質問ノ言動カ惡意的テアリ探偵的テアツタ事、辻大尉其ノ儘ノ口吻テアツタ事等々餘程密接ト觸接關係ニアツタモノト判斷スル事カ出來マス

七 檢舉後辻大尉カ隣中隊ノ一候補生ヲ煽動シテ其ノ候補生カ所屬中隊長ヲ強要スルニ至ツタ事實カアリマス辻大尉カ如何ナル性格言動ノ人物テアルカラ證明シ得ルモノト思ヒマスカラ士官學校當局特ニ隣中隊長ニ就キ御調査ヲ願ヒマス

八 佐藤候補生カラ佐々木候補生ニ最近語ツタ所ニ依ルト辻大尉ハ佐藤ニ對シ「十八日以後ハオ前ハ此ノ事カラ手ヲ引ケコレカラハ自分カ引キ受ケテヤル」ト申シタトノ事テアリマス



十一月十九日佐藤ハ筆記報告ヲ呈出シ後ニ辻大尉ノ取調ヘテ受ケ他ノ  
 四名ハ二十日ニナツテ陸軍省ノ命令ニヨツテ調ヘラレタ様テアリマス  
 二十日朝佐藤ハ他ノ四名ニ向ツテ「昨日村中大尉宅ヲ出ル時憲兵ニ見  
 ラレタラシイ中隊長カラ近歩一ノ候補生カ村中大尉ノ宅カラ出タトノ  
 通知カアツタカオ前タラウト云ハレタ、モウ憲兵ニヨツテ外部青年將  
 校ノ方カラパレテ來タカラ全部言ツテ終ツタ方カヨイタラウト」トノ意  
 味ノコトヲ言ヒ後日（入所前）四名ノモノカコノ事ニ就キ佐藤ニ問ヒ  
 質シタ所佐藤ハ「辻大尉カラ「ソウ云フヨリ外ニ手カナイカラソウ云  
 ヘ」ト云ハレタノテ云ツタノテアル」ト答ヘタ由テアリマスコノ事ニ  
 就キ明石少尉、佐々木、次木兩候補生ヨリ詳シク御聽取願ヒマス  
 辻大尉カラ佐佐木候補生外三名ニ與ヘタ手紙ヲ御參照願ヒタイト思ヒ  
 マス此ノ手紙ハ佐佐木候補生カ持ツテ居リマス



註、本書翰ハ後ニ佐佐木候補生ヨリ入手シ證書トシテ軍法會議ニ呈出

セリ其ノ内容ノ一節左ノ如シ

「、、佐藤候補生カ青年將校ノ煽動ヨリ諸君ヲ脱離セシメン事ヲ期  
シ身ヲ挺シテ其ノ渦中ニ入り諸君ヨリ裏切者トシテ暫ラルル事ヲ覺悟  
シテ立チシ行動ヲ容認シタルハ我ナリ、、諸君ヲシテ臺上ヨリ去ラ  
シムルカ如キ狀況ニ到ランカ、、我正ニ死ヲ以テ諸君ニ謝セン諸君  
ノ手ニヨリテ瞑目スルヲ得ハ望外ノ幸ナリ、、

三月十三日

要スルニ佐藤候補生ハ辻大尉ノ掌頭ニ躍ラセラレテ私共ノ情況ヲ探索シ

タモノテアル事ハ明カテアリマス

人各々思想ト信念トヲ有シ其ノ異ナルニ從ツテ正々堂々ノ論争ヲ爲ス事

ハ必然的現象テアリ社會進化ノ爲絶對必要ノ事テアツテ同シク大元帥陛



下ノ股肱テアツテモ軍人全部ニ機械的劃一ヲ望ミ得ナイノハ勿論各々其  
 ノ信スル所ニ向ツテ邁進スルノハ當然テアリマセウカ同シク 陛下ノ股  
 肱テアル軍人同志ニ於テ私利私黨の觀念カラ「スパイ」行動ヲ敢テシテ  
 迄モ排擠ニ是レ務メルニ至ツテハ斷シテ許スヘカラサル統帥大權ノ冒瀆  
 テアリ國軍内部ノ攪亂テアリ皇軍ノ破壞行爲テアルト申サナケレハナリ  
 マセ又 尚此ノ外參考ニナルト思ハレマス事實ヲ若干次ニ申述ヘマス  
 一 辻大尉ハ事件發生以來末松中尉、明石少尉、荒川候補生、戸山學校高  
 柳大尉等ヲ會見シテ居リマスカ其ノ内容ニ就イテハ右ノ人々ヨリ御聽  
 取願ヒマス  
 就中末松中尉ニハ「村中、磯部、片岡カ首ヲ切レ」云ヘハ渡スレト言  
 ツテ居リマス是レハ辻カ進己ノ行動ヲ正義ツケ様トシタ證據テ正義ツ



ケントスル辻ノ心中ニハ差ラ疾シイ懼ミカアル爲テアリマセウ而モ一  
方ニ於テコノ言ヲ爲シテ居リ乍ラ他方軍刀拳銃ヲ釣ツテ歩キ「村中ハ  
磯部ニ會ツタラ一刀兩斷ニシテヤル」ト同期生方面ニ豪語シテ居リマ  
ス佐佐木等四名ノ士官候補生ニ死ヲ以テオ詫ヒシヤウトイフ手紙ヲ與  
ヘ乍ラ未タニ首吊リモ猫自殺モシナイト同一轍テ同大尉ノ心事ヲ疑  
ハサルヲ得ナイ次第テアリマス  
ニ辻大尉ノ處ニハ事件發生後電報ヤ書信テ「シツカリヤレ」ト云フ様ナ  
激勵カ來テ居リマス橋本大佐、天野大尉等カラ協力援助ヲ申シ込ンテ  
居リマス  
田中隆吉中佐ハ「之レテ反對派ハ潰滅シタコレカラ我々ノ勢力カ延ヒ  
ル」ト云ツテ居リマス

三事件突發後新聞記事掲載禁止ト殆ント同時頃ニ候補生カ陳述セルモノ



ト概ネ同一ナ内容ノ「計畫」ナルモノカ「眞崎、秦、小畑等ノ身邊ヲ危シ」ナトト附加サレテ怪文書トシテ各方面ニ配布サレ彼等ノ一派ノ者カコノ怪文書ハ西田税カ株屋方面ニバラ撒イタモノデアルトイフ「デマ」ヲ飛ハシテ居リマス惡辣賤劣ナ事モ茲ニ至ツテハ極マレリト云フヘキデアリマセウ

怪文書ノ撒布時機カ極メテ早イ事ト佐藤、辻等ノ陳述ト内容カ殆ソト同一ナル點ニ於テコノ出所ハ嚴探スルヲ要スルモノト思ヒマスカテ御捜査ヲ願ヒマス

尙民間テコノ怪文書發行關係者デアルト云ハレテキル座間勝平、日本國體研究所ノ金内良輔、梨本祐準等ハ豫テカテ田中少佐、片倉少佐、天野大尉等ニ連絡アル人物デアリマス

四片倉少佐ハ參謀本部員時代青年將校掛ト稱シ各地ニ公務トシテ出張シ



テハ私共ノ「デマ」ヲ放送シテ歩イテ居リマシタカ同少佐カ此ノ職責  
上上司ニ報告シテキル書類カアルト思ヒマスカラ是等ノ書類ヲ一應御  
調査下サレハ同少佐ノ態度カハツキリスルト思ヒマス  
尙同少佐ハ目黒憲兵大尉ニ公務上ノ依頼トシテ五十萬元怪文書事件ノ  
首魁テアル野島軍曹ノ身上調査ヲ依頼シタ事カアリ目黒大尉カ調査ノ  
結果ヲ報告シマシタ所此ノ報告其ノ事ヲ野島軍曹ニ漏ラシタノテ目黒  
大尉カ激怒シテキタ事カアリマス片倉少佐ノ人物ヲ知ル一端ト思ヒマ  
スカラ目黒大尉ニ就キ御調査ヲ願ヒマス又明石少尉カ片倉少佐ニ面會  
シテ居リマスカ同少佐カ如何ニ虚言ニ富ム人物ヲアルカノ例證トシテ  
明石少尉ヨリ御聽取願ヒマス

其最近世間テ喧シクナリマシタ大本教中心ノ昭和神聖會及改造斷行請願  
運動ニハ彼等ノ一群カ秘カニ參加シ背景トナツテ居ル由テアリマス



此ノ運動ノ促進ノ方カラ言ツテモ私共ノ存在カ邪魔ニナリマスノテ私共ヲ蹴落ス爲ニ惹起シタノカ今回ノ事件タトモ噂サレテ居リマス

結 言

以上テ私共ト彼ノ一群トノ間ニ如何ニ思想信念ニ於テ根本的相違カアルカ及誣告ノ經緯ニ就イテハ大體ハ御了解ノ事ト存シマス

從來彼ノ一群カ私共ニ加ヘテ來タ有形無形ノ壓迫陰謀、誣劣ナ策動ニ對シテ緘黙ヲ守リ只管舉軍一體ノ維新御奉公ニ向ツテ直往邁進シテ參ツタノテアリマスカ軍内ノ腐敗紊亂今日ノ如クテアツテハ御一新ニ向ツテ今後一步モ前進シ得ナイコトハ極メテ明カテアリマスカ茲ニ彼ノ一群ノ策動ヲ剔抉シテ軍内廓清ヲ期スル爲敢テ緘黙ヲ破リ告訴ニ及ビタ次第デアリマス

軍シ盤望漸ク地ニ陷ントスル秋斷乎トシテ軍自體ノ廓清ヲ決行シ國民ノ



信ヲ繫キ上ハ  
大元帥陛下ノ御負托ニ副ヒ奉ルハ刻下ニ於ケル至大至重ノ喫緊事テアリ  
マシテ是レカ決行ノ時機ハ軍ノ勢威全ク地ニ落ちサル以前ノ今ニ於テス  
ルノテナケレハ天ノ時ハ永遠ニ去リ一般國民カラ再ヒ往年ノ軍閥視サレ  
平和熱時代ノ走狗視サレルニ至ルテアリマセウ茲ニ私ハ  
大元帥陛下ノ御名ニ於テスル軍律、司法權ノ御發動ヲ以テ正邪黑白ヲ獨  
裁斷アラシムコトヲ冀フ次第テアリマス以上

告訴追加其ノ二

五月上旬數回ニ亘リ檢察官ニ對シ

陳述セルモノノ中重要事項ノ要旨

陸軍士官學校幹事ノ談ニ據レハ辻大尉ハ佐藤候補生ノ區隊長ヲ佐藤宅



ニ遣ハシ其ノ母及姉ニ對シ佐藤ヲシテ青年將校ノ内情ヲ探ラシムルコトニ關シ同意ヲ求メシカ母及姉共ニ拒絕ノ意ヲ述ヘ流涕スルニ至レリ而シテ母ハ佐藤ニ對シ其ノ不可ナル所以ヲ懇諭セシモ辻中隊長ヲ盲信セル佐藤ハ遂ニ母ノ言ニ承服セサリキト云フ

時日不詳ナルモ辻大尉ノ意圖奈邊ニ存セシカヲ知ル爲貴重ナル資料ナルヲ以テ調査ヲ要ス

ニ同幹事ノ言ニ據レハ十一月事件終結スルヤ教育總監ヨリ士官學校生徒ニ對シ訓示スル所アリシカ當日辻大尉ノ舊中隊タル本科第一中隊ハ猩紅熱發生ニヨル隔離ノ故ヲ以テ訓示場ニ出席セサリキ然ルニ猩紅熱發生ノ爲隔離スルヲ要セシハ患者發生區隊ノミニシテ其ノ他ノ同中隊生徒ヲ右ノ如キ口實ヲ設ケテ出場セシメサリシハ實ニ同中隊生徒間ニ訓示場ニ於テ騷擾ヲ惹起シ教育總監ノ訓示ヲ妨害セんとスル計畫アリシ







(附錄第四)

告訴狀及陳述要旨

磯  
部  
主  
計



告訴狀

野砲兵第一聯隊陸軍一等主計 磯部 淺一

私ハ左記三名ヲ誣告罪テ告訴シマス

左記

陸軍省軍務局員 陸軍歩兵少佐 片倉 忠

陸軍士官學校附 陸軍歩兵大尉 辻 政憲 信星

陸軍憲兵司令部員 陸軍憲兵大尉 塚本 誠

告訴事實

私ハ今回反亂陰謀事件ヲ以テ司法當局ノ御調ヘヲ受ケタモノデアリマス之レハ從來部内ニ或ル派閥ヲ立テ事々ニ私共青年將校ヲ排斥壓迫シテ來タ人々ノ中ノ前記三名カ辻大尉ノ指導下ニ行動シテ私共ニ間者ノ如クニ接近シタ士官候補生佐藤勝郎ノ惡意ヲ以テ内報シタ虛偽及ヒ歪曲シタ情



報ヲ本トシテ私共ニ反亂計畫アルカ如クシ自分等モ信セサル所ナルニ拘  
ラス私共ヲ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ上司ニ申告シタ  
コトニ起因シテ居リマス  
是ノ詳細ノ事實證據ニ就テハ御召喚ノ節改メテ陳述提出スル考ヘテ準備  
シテ居ルノテアリマス

皇軍將校トシテ茲ニ此ノ措置ニ出マシタコトハ誠ニ恐レ多イコトテハア  
リマスカ從來部内ヲ蔽ヘル悲ム可ク憤ル可キ暗雲ヲ一掃シ眞ニ皇國ノ皇  
軍ニ返スコトカ喫緊ノ問題テアルト確信シ萬考ノ結果涙ヲ吞ンテ此儀ニ  
及フ次第テアリマス

昭和十年四月二日

第一師團軍法會議 檢察官 殿



五月八日乃至同月十三日軍法會議ニ出頭シ告訴理由陳述内容ノ要點左ノ如シ

一 告訴理由ハ先キニ村中大尉カ二月七日四月二十四日ノ二回ニ亘リ提出

セル片倉少佐辻大尉ニ對スル<sup>告訴状及</sup>告訴理由追加ニ陳述セル内容ト同一ナル

ヲ以テ村中大尉ノ告訴理由ヲ全部小官ニ適用セラシメシ

二 辻大尉カ虚偽ノ事實ヲ捏造申告セル點ニ關シ左記ノ如キ證據アリ昭和

十年五月二日佐々木候補生、中島少尉ノ兩名カ佐藤候補生ニ面會シ質

問セルニ對シ佐藤候補生ハ左記内容ノ返答ヲナセリ（以下佐々木候補

生ノ手記、問ハ中島少尉又ハ佐々木候補生ノ答ハ佐藤候補生トス）

一 問 陰謀計畫ノ目的ハ

答 林、荒木、眞崎三大將ヲ主班トスル維新内閣ノ出現ヲ待チテ其

維新政策ニ反抗スル分子ヲ團體擁護ノ立場ヨリ直接行動ニ訴フル



ハ最モ理想トスル所デアリマスカ狀況眞ニ已ムヲ得サル場合ハ之  
レヲ待ツコトナクヤルト村中大尉カラ云ハレマシタカラ其ノ通り  
ノ事ヲ辻大尉ニ申述ヘ豫審ノ時ニモ言ヒマシタ

問 俺ハ直接行動ニヨリ治安ヲ擾亂シ戒嚴令下ニ於テ林、荒木、眞  
崎三大將ヲ主班トスル軍政府ヲ樹立スル事ト言フ様ニ豫審ノ時ニ  
讀ミ聞カセラレタカコノ様ナ讀ミ聞カセハナカツタカ

答 アリマセンテシタ、辻中隊長ニハ前ニ言ヒマシタ様ナ事ヲ申述  
ヘ豫審ノ時ハ私ハ私ノ調書ヲ讀ミ聞カセラレタタケテ佐々木サン  
カ言ハレタ様ナ事ハ聞キマセンテシタ

二問 實行時機ニ就イテハ

答 臨時議會若クハ其ノ直後少クモ一月迄ニハヤルト聞キマシタノ  
テソノ通り申述ヘマシタ



問 誰カラ聞イタカ

答 十月ノ下旬或ハ十一月ノ上旬頃タツタト思ヒマスカ片岡中尉カ

週番士官中佐藤一人テ面會ニ行ツタ時ニ片岡中尉カラ聞キマシタ

問 十八日ハ村中大尉ヨリ時機ニ關シ聞イタ事ハ

答 維新内閣出現シ之レニ反抗スル不逞分子ヲ斬ルト言ハレマシタ

問 其ノ外ニ

答 現在ハ青年將校其レ自體ノ結束ニ於テ波カアルノテマタ出來ナ

イケレトモ其ノ方ハ一、二週間モシタラ纏リカ就クト言ハレマシ

タ

問 六ヶ條ノ指令カアツタガ

答 不イエ、アレハ指令ト言フ程ノモノテハアリマセ又其ノ事ハ豫

審ノ時ニモ申述ヘテ置キマシタ



問 其中ニ片岡中尉ヲ中心トシ精神的ニ團結シ同志ヲ獲得セヨト言  
フノカアツタカ貴様ハ佐<sup>左</sup>様ニ申述ヘタカ

答 バイ其事ハ村中大尉ヨリ聞キマシタ片岡中尉ヲ中心トシ士官候  
補生ハ精神的結束ヲ固クシカニ於テモ士官候補生ノミニテモ立チ  
得ル如クニ同志ヲ得ルト言フ事カ必要テアルト言フ意味ノ事ヲ言  
ハレマシタ

問 萬一ノ場合ハ士官候補生ノミニテモ蹴起スヘシト言フノカアツ  
タカ此ノ事ニ就イテハ如何ナル風ニ申述ヘタカ

答 萬一ノ場合士官候補生ノミニテモ蹴起スヘシトソナ事ハ言ヒ  
マセン村中大尉ハ片岡中尉ヲ中心トシテ士官候補生自體ノ結束ヲ  
強クシ候補生ノミニテモ起チ得ルカ如ク努力スルコトカ必要テア  
ルト言フ意味ノ事ヲ言ハレマシタカラ其通りノ事ヲ辻大尉ニモ豫



審官ニモ申述ヘマシタ

問

豫メ學校脱出計畫ヲ考究セヨト云フノカアツタガドウダ

答

文句ハ違ヒマスケレトモ村中大尉ハ「貴様等ニモ考ヘルコトハ

アルタロウドウシテ學校ヲ脱出スルカ學校ヲ出テシマヘハ弦ヲ離

レタ矢ノ様ナモノテドウニテモナルカ其レ迄カ難シイ」ト言フ事

ヲ言ハレマシタカラ其通り申述ヘマシタ

問

軍刀ヲ準備スヘシト言フノカアツタカ如何

答

ソシテ事ハ言ヒマセヌソレハ村中大尉カ「ヤル時ハ銃劍テモヨ

イ」ト言ハレマシタクテ佐藤カ「ヤルナラ日本刀ノ方カヨイ」ト

言フタノテアリマス

問

連絡ニ就イテハ特ニ主任者ヲ設クルコトナク毎日曜日ニ一人ツ

ツ村中大尉ニ連絡セヨト言フノカアツタカ佐様貴様ハ申述ヘタカ



答

ツレハ確カ十一日(十一月)タツタト思ヒマスカ武藤カ「自分カ連絡掛ニナリマス」ト言ヒマシタノテ村中大尉カ「特ニ貴様タケカ來ルト言フ事ニセス毎日曜日一人ツツテモ連絡ニ來ルト言フ事ニシタラドウダ」ト云ハレマシタノテアリマス

問

秘密下宿ヲ設置セヨト云フノカアツタカアレハ如何

答

佐藤カ「秘密下宿ヲ作ツタラドウテスカ」ト聞イタノテ村中大尉カ「下宿ヲ作ツタ方カ都合カヨイナラ作ツテモヨイ」ト言ハレタノテアリマス、其通り申述ヘマシタ

以上佐藤候補生ノ答解内容ト小官等ニ對スル告發内容トハ多大ノ相異アリ

前記三名カ反亂陰謀事件ニ關シ如何ニ巧妙ナル捏造ヲセシカハ塚本大尉カ憲兵司令官ニ報告シタル内容ト片倉少佐カ所屬課長ニ對シ報告セ



## ル内容

辻大尉カ生徒隊長ニ對シ報告セル内容

辻大尉カ片倉少佐ニ告ケタル本件計畫内容

片倉少佐カ塚本大尉ニナシタル同上内容ト小官カ提出セル佐藤候補生

眞實ノ告白内容及十一月二十三、四日頃配布サレタル怪文書（片倉少佐

等ノ指示ニ基キ座間勝平、梨本祐準等ニヨリ）トヲ各々對照セハ自ラ

明瞭ナリ

尙本誣告事件ニハ陸軍次官橋本虎之助中將、軍務局長永田鐵山少將、片倉少佐、辻大尉等ト密接不可分ノ連絡アル旨ヲ檢察官ニハ充分陳述主張セリ



(附録第五)

昭和七年一月

(○印ハ伏字)

田○中○清○中○佐○手○記

所謂十月事件ニ關スル手記



昭和六年十月參謀本部及近衛師團等各一部ノ將校ニヨリ國家改造ヲ武力ニ訴ヘテ決行セントスル謀議行ハレタリ本事件ハ未遂ニ終リシト雖モ世ニ所謂十月事件トシテ陰ニ喧傳セラレアリ或ハ非難シ或ハ贊シ互ニ論議セラレツツ而カモ或ハ事實ヲ曲歪シテ論議者自體ニ有利ノ如カラシメ往々真相ヲ誤傳セラル

本事件ハ何レノ方面ヨリ見ルモ重要視スヘキ内容ヲ含ミ將來必然的ニ起ルヘキ第三第四等々ノ舉ニ貴重ナル參考ヲ呈ス

以下吾シ知見セル範圍ニ於テ所謂十月事件ヲ記述スヘシ

吾ト所謂十月事件トノ關係ハ以下記述スル所ニヨリ明白ナリ要ハ吾ハ本事件ニ密接ナル關係ニアリシハ極メテ明瞭ナリ所謂十月事件ニ對シ極メテ密接ナル關係ヲ有ツモノニアリ日ク(1)櫻會(2)所謂三月事件

櫻

會



櫻會ノ概観

本會ハ陸軍省、參謀本部ノ少壯將校カ中心トナリ(9)國家改造ヲ目論ミ建設

セラレタルモノナリ(但シ櫻會ナル名稱ハ便宜上建設久シテ後ニ於テ附

セラルタルモノナリ)

建設日時 昭和五年秋九月下旬

發起者 參謀本部 橋本砲兵中佐 (23) 期

陸軍省 坂田歩兵中佐 (21) 期

警備司令部 樋口歩兵中佐 (21) 期

等ヲ始メ約二十數名

吾ハ本會ノ綱領宣言等ノ起案ヲ托セラレ最初ヨリ本會ニ關係深シ

目的 本會ハ國家改造ヲ以テ終局ノ目的トシ之カ爲メ要スルハ武力

ヲ行使スルモ辭セス



會員 現役陸軍將校中ニテ階級大佐以下國家改造ニ關心ヲ有シ私

心ナキモノニ限ル  
目的達成ノ爲ノ準備行動

- (1) 一切ノ手段ヲ盡シテ國軍將校ニ國家改造ノ必要ナル意識ヲ注入
- (2) 會員ノ擴大強化（昭和六年五月頃ニハ約百五〇名ノ會員アリ）
- (3) 國家改造ノタメ具體案ノ作爲

然ルニ櫻會ナルモノノ本質ヲ考察スレハ建設當時ヨリ既ニ分裂スヘキ性質ヲ多分ニ内包セリ即チ

- (1) 破壊ヲ第一義トシ建設ノ如キハ破壊ノ上ニ自然的ニ發生スルトナス一派（註、言カ壯ナルタメ少ナカラサル人員共鳴ス）

- (2) 建設ヲ主トシ一切ノ理論ヲ準備シ具體案ヲ作成シ得タル後破壊ヲ其範圍内ニ止メ必要ノ數少限度ニ止メントスル一派（註、主張ハ理論的ナ



ルモ地味ニシテ且當時具體案未完成ナリシタメ多クノ共鳴者ナシ

(3) 前二者ノ中間ニ立ツ一派ニ日和見主義的ナモノ(註多數ニシテ常ニ浮動ス)

斯クテ會内ハ最初ヨリ論争絶ヘス三派鼎立ノ状態トナリ破壊ヲ主トスル一派ノ行動ハ常ニ積極的壓倒的ニシテ動トモスレハ櫻會全般ヲシテ直接行動ニ出テントシツツアリ

吾ハ幾ニ昭和三年八月陸軍省ニ轉スルヤ間モナク當時參謀本部作戰課ノ鈴木歩兵少佐(後ニ關係アル人)ヲ主腦トスル或ル研究會(其目的ハ明瞭ナラザリシモ國家改造ノタメ研究會トモ見ラル)ニ加入スヘキヲ求メラレ吾ハ意ヲ決シテ加入シ會員ハ時々偕行社ニ集合シ研究會ヲ開キアリタリ然ルニ該研究會ハ會員中ニ重大ナル意見ノ相違發生シ分裂解消セリ(鈴木少佐ハ歐米ニ出張中)ニ吾ハ乃チ渡邊大尉(20期)岩畔大尉(30期)



山岡大尉（30期）ト共ニ依然深刻ナル研究ヲ繼續シアリタリ

櫻會ノ成立スルトキ吾等四名ハ其ノ儘櫻會ニ入レリ然ルニ會内ノ事情前

述セル如キヲ以テ吾等四名ハ極力改革案ノ完成ヲ急キ一方ニ會ヲシテ暴

力化セシメサルコトニ努力シツツ昭和五年暮ニ到レリ當時上司ハ櫻會ニ

對シ概シテ不快ノ念ヲ抱キアリタリ

櫻會ノ進出

參謀本部ニ於テハ恒例ニヨリ第二部ノ情勢判斷行ハル昭和五年ノ情勢判

斷ハ特記セララルヘキ性質ヲ有ス即チ從來ノ第二部ノ情勢判斷ヲ單ニ作戰

ニ資スルタメノ判斷ノミニシテ更言スレハ敵國ヲ以テ眼中ニ置キタルモ

ノナリシカ當年ノモノハ積極的ニ滿蒙問題ヲ解決セントセハ必然的ニ國

家ノ改造ヲ先行條件トセサルヲ得ス之カ爲先ツ國家ノ改造ヲ決行スヘシ

ト主張勝ヲ制シ情勢判斷中ニ此ノ重大ナル一項加ハリタリ參謀本部



第二部カ從來ノ恒例ヲ破リタル判決ヲ下スニ至リシハ時勢ノ變化ニモヨ  
ルヘシト雖第二部ノ部員班長中ニ多數ノ櫻會員ヲ有シ橋本砲兵中佐（露  
班）根本歩兵中佐（支那班）如キ有力者存シテ活動セシニヨル）  
此ノ情勢判斷ニ際シテ櫻會ナルモノノ主張一部貫徹サルルト共ニ參謀  
次長ヲシテ所謂三月事件ニ櫻會ヲ利用セントセルニ至リシモノト認メ  
ラレ

櫻會ノ軍部外ヘノ進出

櫻會ノ急進派ハ軍部外ニ同志ヲ求メントシ社會民衆黨大衆黨ノ幹部ト屢  
々會合シ意見ヲ交換セリ此ノ結果彼ノ無産黨ハ軍部ノ少壯將校ノ一般意  
嚮ヲ明ニシ軍部カ決シテ資本家ノ手先ニ非サルコトヲ認識スルノ一助ト  
モナレリ然ルニ無産階級ハ軍部ノ此ノ意嚮ヲ以テ自己ノ黨勢擴張ノ爲ニ  
逆用セリ其ノ顯著ナル一例ト見ルヘキハ昭和六年一月下旬ニ於ケル社



會民衆黨ノ廣島支部ニ於ケル態度ナリ

社民黨ノ幹部東京ニテ直接櫻會ノ急進派ト會見セルハ廣島支部大會

ニ於テ云フ「現在ノ軍部ハ著シク我カ黨ニ好意ヲ有ス將官級ヨリ尉官

級ヲ一貫シテ我黨ノ支持者ニ非スレハ共鳴者ナリ特ニ中央部ノ少壯將

校中ニハ既成政黨打倒ノ爲秘密會組織セラレアリ云々」ト

櫻會ハ海軍將校ト連繫ヲ密ニセントシ星洋會（陸海軍幕僚將校中佐以下

ノ會）ヲ作り屢々會見セリ是等ハ凡テ櫻會ノ急進派ノ策謀スル所タリ

櫻會ニ對スル風評

○軍部内ノ贊否ハ混淆シ特ニ櫻會ノ本質ヲ認識セスシテノ論議多キヲ以

テ特ニ記述スルノ要ナシ

○昭和五年暮（？）昭和六年一月（？）ニ於テ警視廳ノ某課長憲兵司令

部ハ一課長ヲ訪レ「近時軍隊内ニ特ニ中央部將校中ニ錦旗共產黨ナル



モハ組織セラレ、天皇ヲ奉シテ變革ヲ企圖セントスル在リトノ風評アリ真相如何」ト問ヘルカ如キハ明ニ櫻會ヲ指シタルモノト認ムヘシ

○又昭和六年一月第一回ノ閣議ノ席上ニ於テ安達内相ハ當時ノ宇垣陸相ニ對シ「近時現役將校中ニ政治ヲ云々スルモノ多ク之カ爲ニ結社サヘ結成セラレアリト云フ真相如何」ト問ヘルアリ是亦櫻會及星洋會ヲ指示セルナラン

斯クテ櫻會ニハ一步一步實踐的行爲ノ方ヘト轉步シ行ケリ然シ乍ラ急進派モ幾多ノ經驗ヲ經テ理論無クテハ到底其目的ヲ達成スヘカラストニ改造ノ具體案ヲ缺キテハ單ナル盲動ニ陥ル可キヲ微カ乍ラ意識セル爲昭和六年一月勿々ヨリ改造案ヲ作成スルニ着手センコトヲ決議セリ而シテ之カ爲委員トシテ選ハレタル者左ノ如シ

坂田中佐 (21期)

根本中佐 (23期)

橋本中佐 (23期)



中野（長）大尉（28期） 田中（彌）大尉（24期） 及予ノ六名

（予カ從來ヨリノ研究ノ同行者タリシ山岡大尉ハ「ソ」聯ニ不日轉任スヘキコト渡邊大尉又支那ニ至ルヘキヲ以テ自ラ辭シ岩畔大尉ハ局外者トシテ櫻會ノ改革案ヲ見ルヲ以テ有利ナリトシテ委員ヲ辭セリ蓋シ委員ハ急進派ヲ以テ大部分ヲ占メ到底満足ノモノ出來サルヘキハ豫想シ得タル所ニシテ吾ハ從來ノ同志四名ト共ニ第二第<sup>三</sup>段構ヘノ必要アルヲ認メ此ノ如クセル也）

吾ハ到底此ノ委員ヲ以テシテハ何モノモ出來サルヘシト思惟シ乍ラモ之ニ依リテ急進派ヲ抑ヘ且彼等ヲシテ如何ニ理論及具體案ノ必要且作爲ノ難事ナルヤヲ意識セシムルノ具ニ供セントセリ斯クテ漸ク櫻會カ不満足乍ラ其進ムヘキ道ヲ自ラ明ニセントスルニ至リシ矢先キ所謂三月事件ハ爆發セリ

三月事件



所謂三月事件

一月九日宇垣大將ハ政界ニ乗り出シ内閣ヲ組織スヘキ決心ヲ固メタリ  
一月十三日宇垣大將ハ杉山次官、二宮次長、小磯軍務局長、建川部長、  
山脇（作戰）課長（但シ當日ハ代理鈴木眞<sup>中佐</sup>）橋本中佐、根本中佐ト共  
ニ國內改造ノ爲方法手段ヲ協議ス（確實ナル情報）

昭和六年一月初旬參謀次長二宮中將ハ橋本中佐ニ對シテ左ノ要旨ノコト  
ヲ示ス曰ク

愈々宇垣大將ハ乗り出スニツキ變革ノ爲ニ必要ナル計畫ヲ作成シテ出  
スヘキコト

橋本中佐ハ此ノ言ヲ信シ直ニ坂田中佐及吾ヲ陸軍省調査班ノ支室ニ伴ヒ  
次長ノ言ニ從ヒ愈々活動スルタメ計畫ヲ作ルヘキコトヲ求<sup>ム</sup>然ルニ坂田  
中佐ハ吾ハ宇垣大將二宮中將ノ人物櫻會ニ對スル世評等ヨリシテ遽ニ此



言ヲ信スルノ不可ニシテ危険ナルヲ思ヒ一應次長ノ本心ヲ確ムヘキコ  
 計畫ハ二案ヲ作ルヘキコト(一案ハ真相ノ變革案ニシテ櫻會終局ノ目  
 的ヨリ割リ出スモ他ノ一案ハ「カモフラージュ」的シモノニシテ之ニ  
 ヲリ櫻會ナルモノカ危険視サルル要ナキ更言スレハ櫻會ハ極メテ温健ナ  
 ルモノナルコトヲ明示スルニ足ルモノソニ案ニシテ次長ノ真意ノ如何ニ  
 應シテ其何レヲ採ルヘキカヲ決定セントス)トセリ  
 橋本中佐ハ直接次長ニ就キ其真意ヲ確ム之ニ依リテ得タル情報左ノ如シ  
 1、宇垣大將乗出シニ賛成シアル軍部ノ主腦者參謀次長建川少將、小磯  
 軍務局長、永田軍事課長、岡村補任課長、重藤支部課長、山脇第二課  
 長

陸軍次官ハ其ノ態度明カナラス  
 2、宇垣大將乗出シニ就キ要スレハ兵力ヲ使用スルヲ辭セス



3、軍隊方面ニモ充分ナル諒解アリ其旨ヲ運用スルモ精コト  
4、建設スヘキ未來社會政綱政策等ハ上級者ニ於テ作爲スヘキヲ以テ政  
權奪取ノ方法ヲ立案スヘキコト

等吾人等ハ其計畫ヲ作ルコトトナレリ  
然ルニ上級將校ノ指示ニヨリ「大尉級以下ハ本件ニハ參加セシメス蓋シ  
事不成功ニ終ランカ凡テ罪ニ服スヘク然ル時ニハ遺族ノ生計ノ保證出來  
サルヲ以テ少ナクモ少佐級以上ニ限ルヘシ」ト此ノ指示ハ橋本中佐、坂  
田中佐等ヲ痛ク動カシタリ乃チ二中佐ハ從來ノ研究ノ都合上予ヲ除外視  
シテハ成案ヲ得難キヲ以テ特例トシテ吾ノ參加ヲ上司ニ乞ヘリ支那課長  
ノ運動ニヨリ兎モ角吾ハ參加スルコトトナレリ然シ乍ラ極メテ明瞭ナル  
如ク建設計畫ト破壞計畫トヲ分離立案セントスルカ如キハ暴モ甚タシ忽  
チニシテ破壞政權奪取ノ計畫ハ一寸先ハ暗夜ノ如クナリテ到底出來サル



ニ至レリ而カモ政綱政策ナルモノハ上級者ニ於テモ立案シアラサルコト  
 ハ明白トナレリ而カモ時日ノ遷延ハ許サレス切り離シテ破壊計畫政權奪  
 取計畫ヲ作ルコトトナレリ當時此ノ計畫策定上ニ於テ必要ナル諸件トシ  
 テ知り得タル所ノモノ左ノ如シ

1、軍首脳部乗出サントスル氣勢甚々鋭シ

2、軍隊ノ出動準備ハ暗々裡ニ出来上リ

3、必要ナル資金ハ機密費ヲ以テ取取ス支出ス

4、大川周明博士ハ無産階級（主トシテ大衆黨）約一萬人ヲ動員シ決死

隊ヲ募集シテ参加スルコトニ決定

5、決行ノ時期ハ労働法案上程ノ日トス

6、上司トノ連絡ハ橋本中佐トス

（吾ハ以上ノ諸件細部ニ就キ反問スルモ得ル所ナシ）註、後日確ムル所ニ



ヨレハ此ノ情報中1、2ハ疑問ノ大ナルモノアリ3ハ實際的ニハ一部  
支出4ハ事實)

之ヲ要スルニ軍部今回ノ舉ハ純然タル一ノ「クイデター」ニ過キス吾ハ  
極メテ限ラレタル範圍ニ於テ兵力行使「クイデター」實現ノ計畫ヲ作ル  
コトトナリタリ上級者ハ熱心ニ他ノ建設案ヲ作ルモノト思ヒ乍ラ而  
カモ時日ハ切迫シ立案ノ思料ニ乏シク殊ニ何等ノ統制ナク各自勝手ナル  
行動ヲ採リアリ殊ニ重藤大佐ハ大川博士ト手ヲ握リ無軌的ニ無産黨ト連  
絡シ仄聞スル所ニヨレハ破壊計畫ヲ立案シツツアリト云フ

二月七日午後三時過品川ニ在ル重藤大佐宅ニ集合ス 會スルモノ坂田中  
佐、根本中佐及吾也

重藤大佐ハ吾ニ云フ「既ニ橋本中佐ヨリ承知シアラシモ今回ノ變革ニ際  
シテハ大尉級以下ヲ參加セシメサルコトトナシアルモ君丈ケハ特別トス



然シ萬一不成功ノ場合ニ於テモ決シテ遺族ノ生活ニ關シテハ顧慮スルノ要ナシ然ルヘキ處ニ於テ善處スルコトトセラレアルヲ以テ安ンスヘシ云々ト

重藤以下協議ノ結果破壞計畫ヲ策定ス

其大要左ノ如シ

1、近ク大規模ニ無産三派連合ノ内閣糺弾ノ大演說會ヲ日比谷ニ於テ開

催シ倒閣ノ氣勢ヲ昂揚ス且議會ニ向ヒ「デモストレーション」ヲ行ヒ

本格的ニ決行スル場合ノ偵察的準備ヲ行フ（本件ニ就キテハ詳細ニ計

畫セルモ略ス）

2、勞働法案上程ノ日破壞政權奪取ヲ決行ス

此ノ日政友民政兩黨ノ本部首相官邸ヲ爆撃ス但シ爆彈ハ爆聲大ナルモ殺傷效力少ナキモノヲ使用ス投爆者ハ大川博士ノ計畫ニヨル一萬人動



員ヲ行ヒ八方ヨリ議會ニ對シ「デモ」ヲ行フ、各縦隊ノ先頭ニハ諒解アル幹部ヲ配シ統制ヲ取ル又各縦隊ニハ拔刀隊ヲ置キ必然的ニ豫期セラルヘキ警官ノ阻止ヲ排除ス

3、軍隊ハ非常集合ヲ行ヒ議會ヲ保護スルトシテ之ヲ包圍シ内外一切ノ交通ヲ遮斷ス豫メ將校（主トシテ樓會ノ者）ヲ各道路ニ配シ縦隊ニ配シアル幹部ハ之ヲ實行ス

4、此情勢ニ於テ某中將（此ノ氏名ハ最後迄秘匿セラレ今日ニ至ルモ明カナラス一説ニハ眞崎中將ト云ヒアリ）ハ小磯建川少將ノ何レカ一名以下數名ノ將校ヲ率ヒ議場ニ入り各大臣ニ對シ「國民ハ今ヤ現内閣ヲ

信任セス宇垣大將ヲ首相トスル内閣ヲノミ信賴ス今ヤ國家ハ重大ノ時機ニ會ス宜シク善處セラルヘシ」ト宣言シ總辭職ヲ決行セシム

5、幣原代理以下辭表ヲ提出セシム



6、大命ハ宇垣大將ニ降下スル如ク豫メ準備セル所ニ從ヒ策動ス（閑院

宮殿下及西園寺公ヘノ使者ヲ決定ス）

（一）ハ計畫ノ大綱ノミ各々ニ就テハ細部ノ計畫ヲ立案セルモ

繁雜ニ巨ルヲ以テ略ス）

此ノ日夜半計畫案ハ成ル解散セントスル時重藤大佐ハ各自ニ運動費自動

車代トシテ機密費ヲ分配セントセリ（註、此ノ機密費ニツキテハ後日ニ問

題トナレリ）坂田中佐ト吾ハ斷乎トシテ反對シ遂ニ受ケス是レ坂田中佐

ノ人ト爲リ先見ノ明、平時ヨリ指導ノ適切ナリシニ歸ス、重藤大佐、橋

本中佐ハ既ニ事成リシカ如ク狂喜セリ然カシ吾ハ其ノ計畫ハ全般ノ見透

シニ於テ重大ナル缺陷アルヲ認メサルヲ得ス軍部外ノモノ特ニ大川博士

ノ如キ人物ト共同セントセル點時機トシテ見ルヘキ何モノモ無キ所特ニ

建設計畫ト連繫皆無ナル等々是也二月八日午前九時前日ノ重藤大佐以

建設計畫ト連繫皆無ナル等々是也二月八日午前九時前日ノ重藤大佐以



下建川少將宅ニ會シ破壊政權奪取計畫ヲ計議シ之ヲ宇垣大將ニ呈スルコ  
トトセリ(註本計畫ハ第一第二ノ兩案ヲ作爲セルモノナルモ其ノ根本主  
義ハ同一ニシテ前掲ノ如キ大綱ヲ有テリ)  
今ヤ其ノ決行ノ日ヲ待ツノミトナレリ  
然ルニ其後吾ノ得ル所ノ情報ハ甚タ疑問多キモノノミナリ即チ彘ニ決行  
ニ極メテ熱心ナリト稱セラルル軍務局長ノ態度軟化セリト永田、岡村大  
佐ハ積極的ニ反對ヲ開始セルカ如ク陸軍次官ハ其ノ態度大體ニ於テ反對  
ニ傾キタリト殊ニ參謀次長ノ變革ニ對スル心意ハ極メテ陋劣ナルモノア  
リ曰ク宇垣内閣ノ下ニ於テ陸相ヲ夢ミツツアリト)各自ハ無統制ニシテ  
擅ニ行動シ一ノ情報ヲスラ與ヘス(吾ハ悉ク進ンテ連絡ヲ求メ中ニ重大  
ナル意義ヲ與ヘラレタル大川博士ノ一萬人動員ハ頗ル怪ク而カモ大川博  
士重藤大佐ハ四谷荒木町ニ於テ連夜豪遊ヲ極メ不謹慎千萬ニモ明日ヲモ



知ラヌ命也云々ト藝妓ノ前ニテ口外ナルカ如キ等々就中吾ヲ失望セシメ  
 タルハ建設計畫主義綱領政綱政策等ニ就キテノ研究カ皆無ナリシコトナ  
 リ（註此ノ點ハ橋本中佐ヨリノ言特ニ當時變革ニ熱心ナリシ參謀本部ノ  
 山脇大佐カ未來社會建設ノタメノ綱領政綱政策ノ研究セルモノアラハ借  
 用シタシト吾ニ求メタル點並同大佐ノ言ヘル軍事課長モ多少ハ案カアル  
 ラシイカ實ハ困ツテキルトノ點ヨリ判斷シ實證セラル）  
 斯クテ企圖スル變革ハ眞個ノ國家ノ改造純眞ナル精神ヲ發セルニ非スシ  
 テ俗惡ナル政黨者流ノ政權奪取行動ヲ一層惡化シ陛下ノ陸軍ヲ私シ自己  
 ノ汚レタル慾望ヲ滿サントスル卑シムヘキ心情ヲ基底トシテ成レル暴力  
 行爲ノミ宇垣大將然リ參謀次長然リトス  
 吾人ハ此ノ如キ性質ノ變革ニハ斷乎トシテ反對セサルヲ得ス今ヤ此ノ暴  
 舉ヲ阻止スヘキ必要ヲ見ル幸ニシテ永田岡村兩大佐ノ積極的反對運動ア



リ鈴木中佐ノ反對アリ特ニ鈴木中佐ハ坂田中佐ニ極メテ密接ナル連繫ヲ保テリ而カモ時日ハ速カニ經過シ遂ニ豫定計畫ノ如クニ無産三派聯合ノ内閣攻撃ノ演說會ハ開カレタリ然レ共其規模ノ小氣勢ノ不振等ハ驚クハカリナリ又當時ノ無産派中堅タリシ大衆黨々主麻生久ト會見セル時大川博士トノ間ニ連絡極メテ薄ク一萬人動員ノ如キハ全ク架空的夢想ニ過キサルヲ明ニセリ最早何レノ點ヨリ見ルモ斷然中止スルヲ賢明ノ策ナリトシ意ヲ決シ最急分子タル重藤大佐橋本中佐ヲ説得セントセリ然レ共如何ニ情勢ヲ説述シテモ耳ヲ傾ケス却ツテ益々兒病的トナリ盲進セントシテ聽カス遂ニ橋本中佐ハ爆彈（前掲ノ如小キモノ）三百個ヲ大川博士ノ部下ニ交付セリ（註、此爆彈ハ屢々禍セリ）此ノ結果橋本中佐ト大川博士トノ間ニハ切ル可カラサル縁カ結ハルルニ至レルナリ

重藤大佐、橋本中佐カ如何ニ盲進スルニセヨ大勢ハ如何トモスヘカラス



宇垣大將ハ遂ニ大川博士ヲ招致シテ今回ハ時期適當ナラサルヲ以テ中止スヘキ旨ヲ傳ヘタリト云フ大川博士ハ之ヲ諾シ茲ニ所謂三月事件ハ未遂ニ終レリト雖却ツテ橋本中佐等ノ急進分子ヲ刺戟シ且中央部ノ高級將校中變革ニ加擔セル者アルヲ明カニシ行キ懸リ上次回ノ變革ニハ不同意ナル能ハサル可シトノ觀念ヲ強ク抱カシメ所謂十月事件ヲ準備セルノ形トナレリ

所謂三月事件ニ關シテ注意スヘキ件

- 1、霸道ノ變革ト王道ノ變革ノ差
- 2、周到ナル計畫ト建設計畫ト破壞計畫
- 3、變革ノ時機
- 4、平素ヨリノ準備指導精神及指導原理ノ確立
- 5、統制、統一、連繫



6、軍部外ノ者トノ連繫問題

7、機密費使用ノ問題

三月事件不成功ニ終ルヤ橋本砲兵中佐ハ銳意櫻會ヲ擴大強化シ其ノ行動ヲ活潑尖銳化セシメ同會幹部級ノ言動激越トナレリ之ト同時ニ同會幹部中ノ一部ノ者ノ豪遊ニ對シ激シキ非難ノ起ルアリ即チ櫻會幹部中ノ或ル若干ノ者ハ名ヲ研究同會指導ノ方策樹立ノ爲ト稱シ屢々豪遊ヲ繼續シ之ヲ知ル者ハ彼等カ櫻會ヲ好餌トシ三月事件ニ當リ機密費ヲ私シツツアリ等々ト非難ス吾カ某幹部級者ニ就キ糺シタル結果此ノ非難ハ恐ラク三月事件ニ關シテノ重藤大佐、大川博士ノ遊興ヲ指スナラント果シテ何レカ真ナルヤ

サアレ櫻會ハ斯クテ内部矛盾ヲ擴大シ分裂ノ兆歴然タルモノアリ吾々前記セル諸問題ノ結果ハ櫻會ヲシテ恐ルヘキ淵ニ陥落セシムルナラント判



斷シ之カ救濟並櫻會ヲシテ正常ノ發達ヲナサシムルタメ即チ理論建設  
 畫大衆心理ノ把握無クシテ輕舉暴動セシムルコトヲ抑制シ櫻會ヲ以テ自  
 己野望ヲ遂ケシムルタメノ具ニ供スルコトヲ避ケシメ其分離解體ヲ避ケ  
 シメ以テ有時ノ日櫻會本來ノ企圖セル所ヲ遂行スル上ニ缺ク所無カラシ  
 ムル爲昭和六年六月中旬ノ例會ノ席上一ノ提案ヲ爲セリ即チ「櫻會自體  
 ノ指導精神及行動綱領ヲ樹立スルタメ少クモ幹部級ハ哲學、社會學、倫  
 理學、經濟學、政治學等々ノ中ヨリ國家改造ノ爲ニ必要ナル諸件ヲ理解  
 スヘク之カ爲先ツ可然學者ヲ招シ懇談的ニ其ノ目的ヲ達成スヘク一面斯  
 クスルコトニヨリ學者其ノ者ノ人物識見ヲ看破シ適當ナル者ヲ以テ一ツ  
 ノ團體ヲ結成シ後日ノ役ニ立テシムルヲ適當トス」トノ要旨ノ論是レナ  
 リ

幸ニシテ吾カ提案ハ幹部ノ容ルル所トナリ直ニ之ヲ實行スルコトトセリ



乃チ吾ハ之ヲ帝大總講生ニシテ特殊ノ關係ヲ多クノ教授ニ有ツ鈴木輜重  
兵大尉ニ計リ交渉ヲ行ハシメ成功セリ此ノ舉ハ六月下旬吉田靜致教授ヲ  
先頭トシテ實行セラル然ルニ櫻會幹部ハ一般ニ學者ナル者ハ結論ト判斷  
トヲ有セス且ツ實行力ナキトノ理由ヲ以テ忽チニシテ此ノ舉ヲ廢止シ終  
レリ吾ハ七月勿々ヨリ休暇ヲ利用シテ先ツ關西地方ニ旅行ス此ノ旅行中  
櫻會ヲ中心トセル一ノ問題惹起セリ即チ櫻會幹部ハ急速ニ會員ヲ獲得ス  
ルノ一助トシテ全國的ニ働キカケントシ在京ノ第二十八期生以下ノ尉官  
ノ縱横二方面ニ亘ル會合ヲ催<sup>催</sup>シ一ノ檄文ヲ作爲シ全國ノ尉官（28キ以降）  
ニ發送セリ

本件ニ對スル論評ハ區々ナルモ櫻會ノミヨリスレハ豫期以上ニ其ノ成果  
ヲ獲得セルモノノ如ク判斷セラル會ノ幹部ハ眞ニ意氣揚々タル觀アリ

是レ吾カ八月四日歸京シテ橋本中佐並參謀本部露班ノ將校ニ會ヘル



(○印伏字)

所謂十月事件

時ノ印象ナリ斯クシテ所謂十月事件ハ捲キ起サレルモノナリ  
 八月四日吾カ橋本中佐ニ會セル時同中佐ハ吾ニ云フ「本年九月中旬關東  
 軍ニ於テ一ノ陰謀ヲ行ヒ滿蒙問題解決ノ機會ヲ作ルヘク國內ハ之ヲ楔機  
 トシテ根本的變革ヲ取行セラルヘキナリ云々ト而カモ國內改造問題ハ參  
 謀本部主腦部ニハ十分諒解アリ」ト（註此ノ諒解ハ何レノ程度ノモノナ  
 ルヤ不明ナリ或ハ具體的ノ諒解カ情勢的判斷中ニ加ヘタル事項ヲ指示セ  
 ルヤ）更同中佐ハ云フ「此ノ如キヲ以テ軍部ニ政權ノ來ルヘキ更言スレハ  
 軍部カ中心トナリ政權奪取ノタメ計畫案ヲ九月初旬迄ニ構成セラレタシ  
 政綱政策ハ政權奪取後ニ於テ攻究立案スル筈云々」ト吾ハ政黨ノ腐敗墮  
 落ヲ攻撃シ國民大衆ヲ憤起セシメ自然的ニ政黨ノ崩壞ヲ招來セシムルタ



メ宣傳案ヲ構成スヘク約ス中佐ハ之ニ同ス

吾ハ八月十日再ヒ旅行シ北海道ニ至ル

吾カ不在中櫻會ハ八月ノ例會ヲ偕行社ニ於テ催ス此ノ會合ニ於テ同會ハ百八十度ノ方向變換ヲ行ヒ一ノ修養團體トナルコトヲ申シ合セ一切時局問題ニ關係セサルコトトナレリ

是レ甚タ大ナル問題ナリ一ノ修養團體化ハ單ナル表面的紛飾ニ過キス國內變革ヲ企圖セル露班支那班ヲ中心トセル急進分子ノ策謀ニシテ何等他意ナキヲ示サントスルニ過キス（此ノ事件ハ後日急進分子ヨリノ直話ニヨリ明トナレリ）

九月十八日滿蒙問題突發

吾ハ此ノ朝陸軍省ニ坂田中佐ヲ參謀本部ニ橋本中佐ヲ訪レ事件ノ真相ヲ明カニスルト共ニ橋本中佐ヨリ「今回ハ國內變革ヲ行ハサルコトニセラ



レタルニヨリ宣傳案ハ一應返却スルニ就キ更ニ研究シ置カレタシト申  
 渡サレ變革ノ不實施ヲ明ニセリ吾ハ橋本中佐ノ言ヲ信シ國內變革ハ行フ  
 コトナク唯滿蒙問題解決ニ邁進スルナラント思ヘリ  
 然ルニ十月三日夜（土曜日）橋本中佐ヨリ速達（封書）アリ文ニ云フ「  
 明四日打ち合有<sup>之</sup>候間森ヶ崎ノ萬金ニ御出ヲ被下待入申候勿々（原文ノ  
 儘）（消印ハ京橋新富町）ト吾ハ其集合地ト言ヒ發送地點ト言ヒ共ニ何  
 事カアラシコト豫感シツツ十月四日所示ノ地點ニ至ル萬金ニ到リ橋本中  
 佐ヲ訪レタル旨主人ニ傳ヘタルニ吾身分氏名等ヲ問ヒ之ヲ階上ニ傳ヘ始  
 メテ吾ヲ案内セリ在室スルモノハ最近支那駐在武官トシテ赴任セル長少  
 佐參謀本部露班ノ田中彌大尉、小原大尉ノ三名ナリ  
 彼等ハ云フ

今ヤ國內變革決行セララル



陸軍省參謀本部ヲ始メ近衛第一師團等凡テ國內變革ニ向テ準備中海軍亦  
然リ

先ツ「クーデター」ニ依リ政權ヲ軍部ニ奪取シテ獨裁制ヲ布キ先ツ政治  
變革ヲ行フ

櫻會ハ中心トナリ活動中（註是等ノコトハ彼等カ人ヲ勸誘スル爲到ル處  
特ニ隊附將校ニ對シテ採レル所ノモノナリ）等ノ件ヲ以テ吾ニ參加ヲ要  
求セリ尙彼等ハ加ヘテ云フ

滿蒙事件勃發以來連日連夜變更ノ爲努力シ歸宅セルコト僅ニ二三回ノミ  
參加シテ計畫ニ助力セラレ度ト吾ハ事以外ナルニ驚ケリ然レ共吾ニ疑問  
ナキ能ハス以下吾ト彼等トノ論點ノ一部ヲ掲クルコトニヨリ吾ノ疑問ト  
セル所ヲ窺ハン

（問ハ吾答ハ彼等）



問 國內變革ニ軍部ノ中樞カ參加スルトセハ恐ラク其企圖スル未來社會

建設ノ爲ノ主義綱領政策等ハ存在セン如何ナル内容ナリヤ

答 秘密ニシテ示シ得ス、吾等亦之ヲ精シク知ラス

問 君等事件發生以來日夜畫策スル所ノモノハ何ノ計畫ナリヤ

答 破壊計畫ナリ

問 破壊計畫ハ建設計畫出來上リ其ノ範圍内ニ於テ作ルヘキモノ即チ兩

者ハ一貫セル思想ニ從フヘキモノニ非スヤ建設計畫ヲ明ニセスシテ破

壊計畫ハ不合理ナラスヤ

答 建設計畫ハ他ニ於テ立案中

問 他トハ

答 大川周明博士ヲ主體トセル一派

問 大體ニ於テ如何ナル破壊ヲ行フヤ



答 海軍ノ爆撃隊ニヨル威嚇、首相官邸ニ於ケル閣議ノ席上ニ於テ大臣

全部ノ斬殺、警視廳ノ急襲奪取

問 何ノ爲ニ是等ノ破壊ヲ必要トスルヤ

答 元兇ノ一掃ノ爲ニ必要ナリ

問 此ノ如キ破壊ニヨリテ國內改造ハ可能ナリヤ

答 政治ノ中樞ヲ破壊スルコトニヨリ變革ハ出來得

問 例ヘハ經濟方面ノ變革ハ如何ニスルヤ又之ヲ考慮シアルヤ

答 黙ス

問 吾ノ知レル範圍ニ於テハ大川博士ハ建設者ニ非ス三月事件ニ於テ試

驗濟ノモノナリ此ノ如キ考ヘニ最重要ナル建設計畫ヲ托スル程陸軍中

央部ハ老耗セルヤ

答 實ハ未タ軍ノ中樞部主腦部ニハ連絡ナキモ決行ノ直前ニ於テハ同意



ニセシムヘク之カ爲ニハ大川博士ヲシテ建設案ヲ立テシメツツアルナ  
 大川博士ハ人前ニ其案ヲ披露スルコトヲ天幕イテ御列イテ中即

問 是レ國軍ヲ破壊スルノ根本ナルモノ之ニヨリテ軍ノ首腦部ハ動クヘ  
 カラス又動カスヘキモノニモ非ス如何

答 見解ノ相違ナリ

問 吾ノ見解ニ從ヘハ國家ノ變革改造ハ必要ナリ然レトモ之<sup>之</sup>レカ爲ニハ

其時機範圍方法等ニ就キ正確ナル検討ヲ要ス特ニ充分ナル建設計畫ヲ  
 要ス建設計畫ナクシテ且軍部ヲ破壊スルカ如キ方法ニヨリ急據改造ニ  
 着手セントスルカ如キハ暴モ甚タシ宜シク中止スヘシ

答 理屈ハ正ニ然レ共今ヤ滿蒙事件ノ發生以來在京ノ中少尉大尉級ヲ加  
 盟セシメ且ツ外部(註)軍人外ノトノ連絡密ナリシ關係上如何トモス  
 ヘカラス(退クニ退カレヌ)且時日短少ナリシ爲建設計畫ハ出來ヌ宜



シク加盟シテ助力ヲ得タシ

問 唯々國內改造テウ主義丈ケニハ贊成スルモ其方法ニハ全然贊成シ得  
ス

此ノ如キ問答カ行ハレ結局彼等ノ一ノ盲動ノミニシテ軍中樞部ノ參加ノ  
如キハ全然虚リナルコト明白トナレリ問答ノ結果彼等ハ稍反省セルカ如  
シ

中食後座談的ニ意見ノ交換ヲ行フ

彼等ハ吾ニ對シテ「平時ヨリ變革ニ付キ多大ノ關心ヲ抱キ研究シツツア  
リト聞ク如何ナル未來社會ヲ企圖シツツアリヤ約言スレハ如何ト吾ハ云  
フ

天皇中心ノ人格的共存共榮ノ社會ヲ要ス之カタメ天皇ト庶民トノ中間  
ニ介在スル一切ノ搾取機關ヲ排除シ國民生活ノ擴充發展ヲ圖ルヘシ



！ 日本民族ノ發展飛躍從ツテ一切ノコトハ此ノ點ニ立脚シテ策定セ

ラルルヲ要スト（註）彼等ハ彼等ノ計畫中ニ吾ノ言ヘル所ヲ主トシテ入

レタリト云フ）

斯クテ吾ハ午後六時辭シテ歸ル

此ノ會見ノ結果吾ノ知り得タル事情左ノ如シ

1、從來ノ櫻會中ノ急進分子ハ「クイデター」ヲ企圖ス

2、軍中樞部力之ニ贊シアリト言フハ一ノ手段ニ過キス事實疑ハシキコ

ト大ナリ否關係ナキモノト認ムヘシ但シ參謀本部ノ一部長ハ之ニ關係

シアルカ如シト推斷セラル

3、海軍將校中ニハ個人的ニ贊同シアルモノ少ナカラス

4、陸軍將校中ニ於テハ聯隊學校等ニアル者約百名加盟シアルカ如シ

5、本「クイデター」ノ實施ハ十月二十一日前後



6、本回ノ舉ハ關東軍ニ連絡アルモノト思ハルル節多シ

7、「クイデター」ノ實施ニ當リテハ從來櫻會ニ反對ノ言動ヲ表セル者ノ中特ニ平時ヨリ其ノ人格上ニ缺陷ヲ多ク有ツ者ノ清算ヲ行フ個人的反感ヲ抱ク者少カラス（實施ト共ニソレ等ノ將校ヲ捕縛シ斬罪ニ處スト云フ）

等々

即チ何レノ方面ヨリ見ルモ彼等ノ企圖ハ何等ノ成果ヲ收ムル能ハス而已ナラス此ノ如キハ建軍ノ本旨ニ反シ國家改造ノ唯一ノ力強キ源體タルヘキ軍部ヲ破壊スルヤ大ニシテ其損失甚タ大ナリト云ハサルヲ得ス吾ハ如何ナル手段ニ訴フルトモ之ヲ中止セシムヘク而カモ其中止ニ當リテハ彼等ヲシテ充分納得出來得ル如ク啓蒙セント期ス國家ノ爲國軍ノ爲ニ翌日吾ハ長少佐ノ隱家ニ同行スヘク誘ハル吾ハ情況ヲ明カニスルト共ニ彼等



ヲ説得スルノ機ヲ捉ヘントシ快諾ス、隱家トハ名ノミ實ハ京橋ノ料理屋  
 (屋號失念ス)ナリ吾ハ長少佐、田中(彌)大尉、小原大尉ニ對シ彼等  
 ノ企圖シツツアル行爲ノ著シク我カ國家ニ不利益ヲ來スコト國軍ヲ破壞  
 スル大、國際關係上ノ不利益我產業財政經濟等ニ及ホス惡結果等ヨリ殆  
 ント成功ノ絶望ナルコト等ヲ説キ思ヒ止マルヘク説ケルモ遂ニ十分其ノ  
 目的ヲ果シ得ス唯彼等ニ反省ヲ促シ得タルニ止マル此ノ會見ノ結果吾ハ  
 次ノ諸件ヲ明カニセリ

- 1、彼等ハ九月十九日以來二三日ヲ除キ連日連夜待合ニ起居シアリ
- 2、彼等ノ本據トモ稱スヘキ待合ハ赤坂、新橋、四谷、大森、京橋等ノ  
 各地ニ設ケラル
- 3、時々(數日ニ一回位ノ割ニテ)加盟セル中少尉大尉級ヲ若干名宛集  
 メ士氣ヲ鼓舞スル目的ヲ以テ宴會ヲ開ク



4、橋本中佐ハ各方面ノ人物ト連日會見シツツアリ時々本據タル待合ニ  
來ル。一昨日ニ一團、昨日ニ一團、明日ニ一團、大體皆モ吾等ノ  
等々、此ニ類ハシキ

吾ハ甚タシク疑問ヲ投ケサルヘカラサルモノハ彼等ノ多人數ニヨル連日  
ノ豪遊ノ爲ノ資金ノ出所如何ト云フ點カ第一也彼等カ眞ニ憂國慨世ノ精  
神ヨリ今回ノ舉ヲ企テタルヤト云フ點カ第二也前者ニ就テハ或ハ關東軍  
ヨリ長少佐カ持チ來レリト云フモ或ハ政友會ヨリ得タリト云フ（吾ハ今  
日ニ至ル迄之ヲ明ニセス）斯クテ一週間ハ經過セリ吾ハ此ノ間吾等カ研  
究ノ同志タル池田少佐ニ橋本一派ノ一ク、一デ、一計畫ノ内容ト之ニ對  
スル吾ノ考トヲ述ヘ少佐カ親交アル今村均大佐（第三課長）ニ通シ善處  
スル所アラシクコトヲ要求ス少佐ハ吾ノ考ニ共鳴シ速ニ之ヲ今村大佐ニ通  
ス大佐ハ大ニ驚愕シ最善ヲ盡サント約ス、但シ吾ハ飽ク迄彼等ノ行動ト



情勢トヲ明ニシ改悟スルノ機ヲ捉フル爲上司ハ未タ強壓的態度ニ出スマヘ  
カラサルコトノ注意ヲ喚起シ置ケリ

今村大佐ハ建川少將ニ對シテ「近來大川博士一派カ何事カ策謀シツツア  
リトノ風評ヲ聞ク真相如何」ト少將之ニ答ヘテ「然リ最近大川ヲ招致シ  
策動ヲ中止スヘク要求セル所彼ハ快ヨク諾シタリ」ト吾ハ此情報ヲ得テ  
建川少將カ本事件ニ對シ何等カ諒解アリタルニ非スヤト憶測セサルニ至  
ル

十月十二日吾ハ街路ニ於テ田中（彌）大尉ニ會ス彼ハ首相官邸ニ對スル  
現地偵察中ナリ小原大尉亦然リト且吾ニ對シ本日午後六時大森ノ松淺  
ニ集會スヘキヲ求メタリ吾諾ス午後六時所定ノ地ニ至ル會スル者橋本中  
佐、長少佐、馬奈木大尉他ニ二名（失念）ト吾ナリ此ノ夜田中（彌）大  
尉ハ「クーデター」實施ノ際ニ於ケル詳細ナル計畫ヲ極秘トシテ示シタ



リ其内容ノ大要ハ左ノ如シ但シ吾等ニ對シテハ秘匿シアルモノ少

ナカラス

ニ決行ノ時機ヲ十月二十一日

但シ日中決行スルヤ拂曉トス可キヤハ一ニ情況ニヨル參加將校加盟

十員セル將校ハ在京者ノミニテ約百三〇名ニ

參加兵力 近衛各歩兵聯隊ヨリ歩兵十中隊一MG中隊歩一、歩三

ヨリ約一中隊ニ

但シ夜間決行ノ場合ハ3Giハ殆ト全員

參加兵力中大川ニ私淑セル中隊長ハ一中隊全部ヲ以テ又西田税ニ血

盟セル將校ハ殆ト所屬中隊全員ヲ以テ又外部ヨリノ參加者ハ大川

博士及其門下



西田税、北一輝ノ一派

海軍將校ノ拔刀隊（横須賀ヨリ）約十名

霞ヶ浦ノ海軍爆撃機十三機

下志津ヨリ飛行機 三一四機

實施 1、首相官邸ノ閣議ノ席ヲ急襲シ首相以下ノ斬撃——長少佐ヲ指揮

官トス

2、警視廳ノ急襲占領、小原大尉指揮官トス

3、陸軍省、參謀本部ノ包圍一切外部トノ連絡ノ遮斷並上司ニ強要

シテ同意セシメ肯セサル者ハ捕縛ス、軍行動ニ對スル命令ヲ下

ス

4、同時ニ宮中ニハ東郷元帥參内

新興勢力（註、彼等ハ自ラヲ新興勢力ト稱セリ）ニ大命降下ヲ奏上ス



閑院宮殿下、西園寺公ニハ急使ヲ派ス

新内閣ノ氏名

首相兼陸相

荒木中將

内務大臣

橋本欣五郎中佐

外務大臣

建川美次

大藏大臣

大川周明博士

警視總監

長少佐

海軍大臣

小林少將（中將トシテ）（註）霞ヶ浦ニ在ル航空隊司

令）

其他彼等ノ見テ不良將校、不良人物ニ對スル制裁（略ス）資金金二十萬

圓ハ隨時使用シ得ル如ク準備シアリ

（註是等ノ計畫ハ夫々細部ニ亘リ立案セラレアリキ）



吾ハ今日ヲ最後トシテ斷乎トシテ反對ス

建設計畫ヲ作ルコトヲ第一義トス

日本社會ノ現状ト没交渉ナル無謀ナル計畫ハ不可時機極メテ不可軍ノ破壊

日本産業、經濟、金融等ノ關係上ヨリシテ、外國トノ關係ヨリシテ等々ニ亘リテ約二時間ニ亘リテ彼等ノ計畫ヲ杜撰ナルヲ駁ス、彼等ハ前言ヲ繰返シ破壊ハ我等擔任スヘク建設ハ君ニ於テ行ハレ度シト云フ茲ニ於テ吾ハ「可ナリ、然ラハ吾ハ目下建設案、國家ノ改造案ヲ立案攻究中ナルヲ以テ其完成ヲ待チ破壊計畫ハ其ノ出來上リシ建設計畫ノ範圍ニ於テ吾カ立案スルニ就テ實施ハ其ノ時迄延期シテハ如何」ト彼等ハ云フ何ノ時ニ完成スルヤト吾ハ未定ナリト茲ニ於テ彼等ハ到底延期ス可カラサルヲ縷説ス而カモ或ル一人ヲ如キハ曰ク「兎角理論ヲ研究セルモノハ實行ヲ



輕ンス最早今日ニ至リテハ議論ノ餘地ナシ唯々實行ヘト邁進スルノミ  
トサヘ斷言ス  
吾ハ到底彼等ヲ改悟セシムル能ハサルヲ知り辭シテ歸ラントス  
此ノ時橋本中佐「議論ハ中止シテ種々ノ意味ニ於ケル酒宴ヲ催スヘシト  
テ襖ヲ排セハ藝妓十數名並ヒアルニ吾ハ一驚セリ何タル不謹慎ソヤ醜態  
ノミ  
吾ハ憤然トシテ彼等ノ心情ヲ叱シ歸ルニ臨ミ吾ハ田中（彌）大尉ニ云フ  
吾ハ決行ニハ最後迄反對ス、假令百歩ヲ譲リテ決行スルトシテモ軍部外  
ノ者ト提携スルハ不可

彼云フ

今日ニ及ヒ彼等ト手ヲ切ル如キ情義ニ缺クルコトハナシ能ハス  
吾ハ云フ



國家ノ大事ヲ決行セントスル際片々タル個人ノ情義ニ捉ハルルカ如キハ  
同意シ得サルモノナリ再考ヲ望ムト

午後十一時歸宅ス

吾ハ彼等一派ヲ觀察シテ次ノ如ク判斷セリ

一橋本中佐ハ既ニ四圍ノ情況ヨリシテ退却シタキ考ヘテ有ルカ如キモノ  
ナリ

一長少佐以下ハ是非ニテモ決行セントス

斯クシテ一派中ニ對立スル二ツノ「グループ」生シアルカ如シ 而カモ

騎虎ノ勢ハ遂ニ重大事件ヲ惹起スルノ可能性十分ナリ仍テ之ヲ抑制スル  
ノ手段ヲ必要トスルニ至レリ

吾ハ之カ爲メ

1、上司ヨリ情理ヲ盡シ中止ヲ要求ス



2、肯セサル時ハ憲兵ノ手ニヨリ保護檢束ヲ決行ス

但シ無理ナル彈壓ヲ加フルコトハ將校ノ意氣ヲ消失セシムルト共ニ沈滞スルニ至ルヲ以テ十分ナル注意ヲ要スルモノナリトノ考ヘラ有キ池田少佐ト計リ今村大佐ニ通ス同大佐亦同様ノ考ヘラ有シアリキ幸ナルカナ當時何事カ軍部就中參謀本部將校カ主體トナリテ策動シツツアリトノ風評切リニ至ルコト並ニ彼等一派中ニ橋本中佐ニ對スル反感強烈トナリツツアリトノ情報アリ然カシ乍ラ決行ノタメ着々準備ハ進メラレツツアリト云フ<sup>361</sup>ノ野村中尉ノ如キハ兵器委員ニ對シテ拳銃及彈藥ノ秘密交付ヲ要求シアリ等々橋本一派ノ者ノ行動ニ關スル風評相當ニ多シ

彼等一派カ連日ノ策動ハ殊ニ各々ノ所謂本據ニ於ケル豪遊ハ警視廳ノ注目スル所トナリタルカ如ク橋本中佐ニ對シテハ尾行ヲ附シタルコト



殆ント疑フノ餘地ナシ

十月十五日吾ハ橋本一派カ事ヲ舉クルノ日甚タ接近セリトノ報ヲ得坂田中佐ニ此ノ旨ヲ通シ橋本中佐ヲ説得セラレンコトヲ希望ス中佐ハ事ノ容易ナラサルヲ認メ直チニ橋本中佐ニ會セントセシモ終日目的ヲ果サス

警備參謀樋口中佐ハ櫻會ニ於ケル關係ヨリ個人的ニ橋本中佐ヲ説得セント遂ニ激論ヲ交ヘ終レリ

十月十六日夜橋本中佐ハ陸軍次官杉山元中將ニ對シ事ヲ舉クルニ就キ同意セラルヘキ旨強要ス次官ハ驚愕色ヲ失ヘリト傳ヘラル

(註、十月十六日夜次官ヲ説得セリト一般ニ傳ヘラルルモ吾ハ前後ノ事情ヨリシテ十五日夜半ナラント判斷シアリ)

次官ハ直チニ小磯軍務局長永田軍事課長ヲ招致シ事ノ重大ナルヲ傳フ兩



官ハ全ク寢耳ニ水ノ如シ

十月十六日宮内省ノ高等官ハ動員課長侯爵井上三郎大佐ヲ招致シ橋本事  
件ヲ知レリヤト問ヒシモ大佐亦只々驚愕スルノミナリ大佐ハ歸リテ之ヲ  
局長林桂少將ニ傳フ少將亦愕然タリ此ノ如ク陸軍省首腦部ハ本件ニ就キ  
愕然タルモノアルノミ

十六日陸軍省參謀本部ノ課長中主ナルモノハ近衛及第一師團司令部ニ連  
絡ヲトリ前後處置ヲ講シアリ蓋シ隊附將校ノ多數參加シアルヲ以テナリ  
此ノ日荒木中將（當時教育總監部本部長）岡村補佐課長同道シテ京橋ノ  
旗亭ニ橋本中佐等ヲ訪レ思ヒ止マルヘキヲ説示セルモ斷乎トシテ之ヲ退  
ク乃チ陸軍首腦部ハ彼等ヲ保護スルノ目的ヲ以テ檢束スルニ決シ十七日  
拂曉彼等一派ノ首謀者タル約十名ヲ憲兵隊ニ收容セリ此ノ收容時即チ憲  
兵カ各首謀者ノ居所ニ至リシ時ノコトナリ田中（彌）大尉ハ京橋ヨリ次



ノ内容ヲ有ツ葉書ヲ鉛筆書ニシテ記載シ、吾ニ送レリ曰ク  
 前略一黨今ヨリ憲兵司令部ニ至ル善處ヲ請フ十七日午前四時（原文ノ儘）  
 吾ハ此ノ葉書ヲ十八日午前七時受領セリ  
 是ヨリ稍、巖橋本中佐ハ各地ニ在ル同志ニ召集狀ヲ發セリ、小濱氏<sup>善</sup>中佐ハ  
 上京スル將校ノタメ東京「ホテル」ニ配宿ヲ準備ス、弘前ノ部隊ヨリ馳ケ  
 タル大隊長等ノ如キ者ノ爲ニ十月十八日吾ハ研究上ノ同志タル四方憲兵  
 大尉ヲ通シ、事件關係ノ將校ノ取扱ハ武士道ノ精神ニヨルノ必要ヲ憲兵隊  
 ニ通ス、然ルニ既ニ東京憲兵隊長ハ收容將校ヲ武士道ノ精神ニヨリ取扱ヒ  
 アリ、是レ難波東京憲兵隊長ノ人格ノ功績ニ歸スヘキナリ  
 手記ハ十七日ニ戻ル  
 十七日憲兵司令官外山中將事件ヲ耳ニスルヤ直チニ之ヲ警視廳ニ通報セ  
 リ、是ニ對シ警視廳ハ「本件ニ關シテハ一切ノ軍部ノ處置ニ委スヘキヲ以



テ可然取計ハレ度ト憲兵司令官カ本件ヲ警視廳ニ通シタルカ如キハ無  
用有害ノコトナルヘク且憲兵司令官トシテ事件ノ見透シ並ニ確固タル信  
念ヲ缺ケル結果ニシテ甚タ不快ナリ是一般將校ノ感想ナリ警視廳ハ橋本  
事件ニツキ容易ナラサル策動ノ存スルヲ偵知シアリシモ彼等一派ハ  
秩父宮賀陽宮兩殿下ヲ奉シアリトノ旨ヲ知り遂ニ如何トモ爲スヘカラサ  
ルモノト諦メアリト謂フ果シテ眞乎

本件カ發覺シ關係將校ノ各地ニ分散收容ヲ終リ先ツ一段落ヲ告クルヤ陸  
相南大將ハ本件ニ關シ閣議ニ報告シ新聞記事ハ永久差止メトナレリ陸相  
カ閣議ニ報告セル所ハ左ノ如キ要旨ヲ含ム曰ク

今回現役將校中一部ニ於テ或ル種ノ策謀ヲ企テタリ然レトモ是レ憂國慨  
世ノ熱情ヨリ出テタルモノニシテ他意存スルニ非ス唯々之ヲ放置スル時  
ハ外部ノ者ノ策動ニ利用セラレ又軍規ヲ破壞スルノ行爲トナリ易キヲ以



テ保護ノ目的ヲ以テ收容セリ云々ト

被收容將校ニ就キテノ非難少ナカラス彼等ハ東京ヨリ藝妓ヲ招キテ遊興ヲ專ラニスルカ如キ或ハ放縱不謹慎ナル態度アル等是レ也彼等ハ約二旬ノ間收容セラレ逐次解散セラレル本事件ニ關係セル將校中橋本中佐ハ重謹慎二〇日長少佐、田中（彌）大尉ハ各十日ノ重謹慎ニ處セラレ其他懲罰者ヲ出サス但シ苟クモ本件ニ多少ナリトモ關係ヲ有スル將校ハ中央部タルト軍隊タルトヲ問ハス一切之轉任セシメ人的關係ヲ一掃セリ

○十月事件發覺ノ動機

所謂十月事件カ發覺セル原因動機ト見ルヘキモノ左ノ如シ

1、行動ノ不謹慎一一派ノ者カ明治維新當時ノ志士ヲ夢ミ豪遊ヲ極メツツアリシハ其人最大原因ナリ此ノ結果ハ既述セル如ク警視廳ニ着目セ